

第七章 授業料

第四十二條 授業料ハ一學年金貳拾五圓トシ左ノ區分ニヨリ納付セシム

第一學期 九圓 九月十三日ヨリ同十五日マテ

第二學期 八圓 一月十三日ヨリ同十五日マテ

第三學期 八圓 四月十三日ヨリ同十五日マテ

但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス

第四十三條 前條ノ期日内ニ納付セサルトキハ未納中停學ヲ命シ之ヲ保證人ヨリ辨納セシメ其未納三週日ニ至ルモノハ除名ス

前項ノ理由ニ依リ停學ノ處分ヲ受クルコト一學年間二回ニ及フモノハ除名ス

第四十四條 既納ノ授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セス

第四十五條 休學ノ許可ヲ得タル者若クハ欠席數月ニ渉ル者ト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十八條ニ依リ休學許可ヲ得タルモノハ次學期以後ノ授業料ヲ納付スルニ及ハス

第四十六條 第十條但書第三十八條後段第五十一條ノ場合ニ於テハ直ニ該學期ノ授業料ヲ納付セシム

第四十七條 半途退學スルモノハ當該學期ノ授業料ヲ納付セシム

第八章 特待生

第四十八條 特待生ハ第二學年以上ノ本科生徒ニシテ學術優等品行方正ナル者ヨリ學校長之ヲ選ム

第四十九條 學校長ハ每學年ノ末ニ於テ其學年ノ成績ニヨリ次學年ノ特待生ヲ指定ス

第五十條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免除ス

第五十一條 特待生ニシテ第四十八條ノ資格ヲ失フモノト認ムルトキハ直ニ特待生ヲ罷ム

第九章 貸費

第五十二條 貸費金ハ官費又ハ官廳ノ委託金或ハ有志者ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條 二學年以上ノ本科生ニシテ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修メ若クハ學力優等品行方正ナルモノ學資支辨ノ途ナキトキハ詮議ノ上年額金百圓以内ノ學資ヲ貸附スルコトアルヘシ但官費ヲ以テスル貸費ハ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修ムル者ニ限ル

第五十四條 貸費ヲ受ケントスル者ハ修學ノ目的及貸費希望ノ理由ヲ詳記シ保證人連署ニテ願出ツヘシ

第五十五條 貸費ヲ受クル者ハ第三號書式ニ準シ誓約書ヲ差出スヘシ

第五十六條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業ノ翌月ヨリ起算シ貸費ヲ受ケタル月數ニ二倍スル期限内ニ於テ其貸費金額ヲ月賦返納スヘシ

但第六十二條ノ場合及本人死去ノ場合ハ其貸費ヲ返納スルニ及ハス

第五十七條 貸費生ニシテ左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スルトキハ直ニ其貸費ヲ罷ム

- 一 學業懈怠若クハ成績不良ナル者
- 二 品行不良ノ者

三 休學シタル者

以上ノ各項ニ依リ貸費ヲ罷メラレタル者ハ第五十六條ニ準シ其己ニ受ケタル貸費ヲ返納セシム

第五十八條 貸費生ニシテ退學又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者又ハ病氣其他ノ事故ニ依リ退學スルモノハ其當日ヨリ三十日以内ニ既ニ受ケタル貸費金全額ヲ返納スヘシ

第五十九條 返納金ハ本人之ヲ納付セサルトキハ保證人ヨリ辨納セシムルモノトス

第六十條 保證人死去又ハ其資格ヲ失フトキハ直ニ代人ヲ立テ更ニ誓約書ヲ差出スヘシ

第六十一條 有志者ヨリ貸費資金ヲ寄附セントスルトキハ其目的ニ從ヒ第四號或ハ第五號ノ書式ニ準シ開陳書貳通ヲ差出シ學校長ノ承諾ヲ受クルモノトス

第六十二條 寄附者ハ貸費ヲ受クル者ニ對シ卒業後貸費ヲ受ケタル年數ニ均シキ期限内某事業ニ従事セシムルコトヲ條件ト爲スコトヲ得

第三號書式

印紙 誓約書

私儀今般御校貸費金相受候ニ付テハ御校貸費規定ヲ遵守(且卒業後ハ何々事業ニ從事)可致萬一違背ノ節ハ保證人連帶ヲ以テ返納金其他一切ノ責ニ任スヘク仍テ保證人連署ノ上誓約候也

年月日

東京外國語學校何語學科生徒

本人 氏 名印

現住所

族籍職業

保證人 氏 名印

現住所

族籍職業

保證人 氏 名印

現住所

東京外國語學校長宛

第四號書式

出金開陳書

何語學科生徒何名分學資トシテ金何圓也(或ハ年々金何圓何回)ヲ東京外國語學校ニ差出候間相當ノ生徒御選定貸與相成度尤モ右生徒卒業ノ上ハ某事業ニ從事致サセ度儀ニ有之候間此旨豫メ誓約セシメラレ度此段併セテ開陳候也

住所族籍

年月日 氏 名印

東京外國語學校長宛

第五號書式

出金開陳書

(何々貸費金ノ名目ヲ以テ)獎學ノ爲メ金何圓也(或ハ年々金何圓何回)ヲ東京外國語學校ニ差出候間相當ノ生徒御選定貸附相成度尤モ右生徒卒業ノ上從事ノ職

東京外國語學校規則

業ハ別ニ制退不致候間貸附學資ハ御校規定ニ從ヒ返納致サセ更ニ他ノ生徒ニ御貸附相成度此段開陳候也

住所族籍

氏

名印

年月日

東京外國語學校長宛

第十章 研究生

第六十三條 卒業生ハ學校長ノ許可ヲ經テ其所修語學科ノ研究生タルコトヲ得

第六十四條 研究生ノ在學期限ハ二ケ年トス

第六十五條 研究生ハ指導教授ノ指揮ニ依リ本校所設ノ科目ヲ選修スルコトヲ得

第六十六條 研究生ハ其許可ヲ得タル時直ニ在學費トシテ金五圓ヲ納付スヘシ但在學中授業料ノ規程ヲ適用セス

第六十七條 研究生其研究ヲ終リタル時ハ研究ノ結果ヲ報告ス可シ學校長ハ成績ヲ考查シタル上證明書ヲ授與ス

第十一章 選科生

第六十八條 一語學科中ノ二科目又ハ數科目ヲ選修センコトヲ出願スル者アルトキハ授業上差支ナキ場合ニ限り學年ノ始ニ於テ選科生トシテ入學ヲ許可ス

第六十九條 選科生ハ其所選ノ科目ヲ學修スルニ堪ユル學力アルコトヲ要ス

第七十條 選科生ノ入學料及授業料ハ第十八條及第七章ノ規程ニ依リ之ヲ納付セシム

第七十一條 選科生其所選科目ヲ修了シタル時ハ本人ノ申請ニ依リ修業證書ヲ授與ス

第七十二條 選科生ニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外總テ本校諸規則ヲ適用ス

第十二章 委託生

第七十三條 本校ハ官廳又ハ會社學校等ヨリ其目的ヲ指定シテ本科生又ハ選科生ヲ養成ヲ委託セル場合ニハ之ニ應ヌルコトアルヘシ

第七十四條 會社學校ノ差出スルキ委託願書ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第七十五條 委託生ハ第十九條及第二十條ノ規定ヲ適用セサル外總テ本科生若クハ選科生ト同一ノ取扱ヲナスモノトス

第六號書式

委託願

族 籍
氏 名
年 齡

右者今般御校本科選科生トシテ何々語學科ニ入學爲致度尤モ本人在學中ニ係ル一切ノ責任ハ當會社(當學校)ニ於テ引受可申候本人履歷書相添此段相願候也

何々會社

年月日

何

某

東京外國語學校校長宛

第十三章 懲罰

第七十六條 規則及命令ニ違背スル者校内ノ風教ヲ害スルモノ又ハ怠惰不品行等生徒タルノ本分ニ背キタルモノハ其輕重ニ應シテ之ヲ處罰ス但處罰ハ德義

ニ基キテ之ヲ斷シ單ニ形跡ヲミニ拘ハラサルヘシ

第七十七條 罰科ヲ分チテ戒飭停學退學ノ三種トシ戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ

戒メ停學ハ一年間以内教室ニ入りテ修學スルコトヲ停止シ退學ハ學校ヨリ退

學ヲ命スルモノトス

附 則

第七十八條 本規則ハ明治三十七年九月十一日ヨリ實施スルモノトス

第七十九條 本規則改正以前ニ入學シタルモノ、授業料ハ舊規則ニ據ル但本規

則施行後二ケ年ヲ經過シ卒業スルコト能ハサルモノハ此限ニアラス

第八十條 舊規則ニ據リ授業料ヲ納付スル者ハ左ノ區分ニ依リ納付スヘシ

第一學期 金八圓 九月十三日ヨリ同十五日マテ

第二學期 金六圓 一月十三日ヨリ同十五日マテ

第三學期 金六圓 四月十三日ヨリ同十五日マテ

但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス

東京外國語學校專修科規程

東京外國語學校規則

第一條 專修科ハ速成ヲ旨トシ本校所設ノ各語學ヲ教授スルモノトス

第二條 專修科ハ職業ヲ有スル者若クハ特別ノ事情アルモノニ限り學校長ノ意見ニ依リ入學ヲ許可ス

第三條 專修科ハ本校規則第十六條ノ履歷書ヲ差出スヘシ

第四條 專修科ノ授業時數ハ一週十時間トス但授業時間ハ午後四時半以後トス

第五條 專修科第一學年ニ入ラントスル者ハ入學試験ヲ要セス但必要ト認ムルトキハ特ニ之ヲ行フコトアルヘシ

第六條 專修科ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス但第二學期ノ始ニ於テ試験ノ上入學ヲ許スコトアルヘシ

第七條 專修科ハ時宜ニ依リ或語學科ノ生徒募集ヲ爲サハルコトアルヘシ

第八條 專修科入學料ハ金壹圓トス但本校規則第六條ニ依リ兼修スル者及本校卒業生若クハ修業生ニシテ入學スルモノハ之ヲ納付スルニ及ハズ

第九條 專修科授業料ハ一學年金拾五圓トシ左ノ區分ニ據リ納付セシム

第一學期 金 六圓 九月廿三日ヨリ同十五日マテ

第二學期 金四圓五十錢 一月十三日ヨリ同十五日マテ

第三學期 金四圓五十錢 四月十三日ヨリ同十五日マテ

但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス

第十條 本校規則第六條ニ依リ兼修スル者及專修科生ニシテ所修語學科以外ノ學科ヲ兼修スルモノハ其兼修學科ニ對スル授業料ヲ半減ス

第十一條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ許可ヲ經テ試業ニ欠席シタル者ニハ平常ノ成績ヲ參酌シ認定點ヲ付スルヲ又ハ追試業ヲ受ケシムルモノトス

第十二條 專修科ヲ修了シ一定ノ試験ヲ經タルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第十三條 專修科ヲ修了シタル者ニシテ尙ホ溫習セント欲スルモノハ原級ニ留マルコトヲ得

第十四條 專修科生ニハ本校規則第三章第十九條第二十條第二十一條第二十三條第五章第七章第四十三條第四十四條第四十七條及第十三章ヲ適用ス

附則

第十五條 本規程ハ明治三十七年九月十一日ヨリ施行ス

第十六條 明治三十八年九月十一日以前入學セシ者ニ就テハ舊授業科規程ヲ適用ス但明治三十九年九月以後ハ總テ改正規程ニ據ル

生徒心得

第一條 本校生徒ハ常ニ教育勅語ヲ遵奉シ須臾モ之ニ背カサランコトヲ期スヘシ

第二條 學業ヲ勵ミ規律ヲ守リ言行ヲ慎ミ苟モ生徒タル本分ヲ失フコトアルヘカラス

第三條 本科生ハ制服制帽ヲ着用シソノ他ノ者ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

第四條 學校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ校内ニ於テ猥ニ會同スヘカラス

第五條 本籍氏名又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第六條 凡ソ告示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ニ知了シタル者ト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ

第七條 校内所定外ノ場所ニ於テ飲食喫烟スヘカラス

第八條 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス

東京外國語學校圖書館規則 (明治三十六年五月制定)

第一章 總 則

第一條 本校ノ圖書ハ總テ書庫ニ貯藏スルモノトス

第二條 圖書ヲ分チテ左ノ二種トス

第一種 通常圖書

第二種 貴重圖書

第三條 本校職員及生徒ハ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得

第四條 諸官廳若クハ公私團體及其役員ハ校長ノ許可ヲ經テ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得

第五條 掛員ノ外故ナク書庫ニ出入スルコトヲ得ス但職員研究生及前條ノ許可ヲ得タル者ニシテ圖書ノ檢索ヲ要スルトキハ此ヲ限ニアラス

第六條 第二種ノ圖書ヲ閱覽シ若クハ借受ケントスルホキハ校長ノ許可ヲ受クヘシ

第一種ノ辭書、諸學科ニ通スル參考書及閱覽室備付ノモノヲ借受ケントスルトキハ亦同シ

第七條 公用ニ非ラサレハ同一ノ圖書二部以上ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得ス

第八條 本館ニ委託セラレタル圖書ハ本校ノ圖書ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二章 圖書借覽

第九條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽證用紙ニ式ノ如ク記入シテ之ヲ掛員ニ差出スヘシ

第十條 本科生ハ制服制帽ヲ着用シ其他ノ者ハ圖書閱覽票ヲ携帯スルニアラサレハ閱覽所へ入ルコトヲ得ス

第十一條 撰科生及專修科生ニシテ圖書ヲ閱覽セント欲スル者ハ學年毎ニ圖書閱覽票ヲ交付ヲ受クヘシ

第十二條 圖書閱覽ハ閱覽所ニ於テシ他所へ携出スルコトヲ得ス

第十三條 生徒ハ一員ニ付同時ニ五冊以上ヲ閱覽スルコトヲ得ス

第十四條 閱覽所ニ在リテハ喫煙、音讀、談話等渾テ他人ノ防害ト爲ルヘキ行動ヲ爲スヘカラス

第十五條 閱覽所ハ休日及大祭日ヲ除クノ外毎日之ヲ開ク其時限左ノ如シ

從九月十一日 午前八時ヨリ午後四時マテ

至十月卅一日 午前八時ヨリ午後四時マテ

從十一月一日 午前九時ヨリ午後四時マテ

至二月廿八日 午前八時ヨリ午後四時マテ

從三月十一日 午前八時ヨリ午後四時マテ

至七月十日 午前八時ヨリ正午十二時マテ

從七月十一日 午前八時ヨリ正午十二時マテ

第十六條 圖書ヲ借受ケントスル者ハ借用證用紙ニ式ノ如ク記名捺印シテ之ヲ掛員ニ差出スヘシ

第十七條 圖書ノ貸付冊數ハ五冊ヲ以テ限度トス但公用ノモノハ此限ニアラス

第十八條 生徒カ圖書ヲ借受ケント欲スルトキハ主任教授ヨリ保認證ヲ受ケテ掛員ニ差出スヘシ

但研究生ハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十九條 本科生選科生及專修科生ノ借受ケ得ヘキ圖書ハ教科書ニシテ本校ニ數部ヲ備フルモノニ限ル

第二十條 借受圖書ハ他人ヘ轉貸スルコトヲ許サス

第二十一條 借受圖書ハ七月十日迄ニ返納スルコトヲ要ス

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ其借受ケタル圖書ハ悉ク之ヲ返納スルコトヲ要ス

- 一 職員カ退職若クハ轉任スルトキ
- 二 生徒カ退學若クハ休學スルトキ
- 三 第四條ノ借受者カ其資格ヲ失フトキ

第二十三條 夏期休業中ハ職員ヲ除クノ外校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス但本條ニ依リ借受ケタル圖書ハ其休業ノ末日迄ニ之レ

ヲ返納スルコトヲ要ス

第二十四條 貸付シタル圖書ハ臨時返納セシムルコトアルヘシ

但點檢ノ爲メニスル場合ハ公用貸付ノ圖書ニ限リ掛員出張シテ檢閲スルコトアルヘシ

第三章 圖書檢索

第二十五條 圖書ヲ檢索セントスルトキハ其旨ヲ掛員ニ告ケ承諾ヲ得ヘシ但研

究生ハ主任教授ヨリ保認證ヲ受ケ之ヲ掛員ニ差出シタル後本條ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 同時ニ五人以上書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得ス

第四章 制裁

第二十七條 圖書ヲ汚染毀損若クハ紛失シタルトキハ修理ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシム

但時宜ニ依リ修理費用又ハ相當ノ代價ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十八條 本則ニ違背シタルモノハ其輕重ニ從ヒ一定ノ期間又ハ無期限ニ圖

書ノ閱覽及借受ヲ禁スルコトアルヘシ
但第二十二條ノ規定ハ本條ノ場合ニ準用ス

(一) 圖書 閱覽票

三寸九分

250	
東京外國語學校 圖書閱覽票	
語學科	科第 年
姓 名	自明治 年 月 日
	至明治 年 月 日

分三寸二

裏 面

- 一本票ハ本學年間有効トシ次學年ニ於テハ更ニ引換交付スヘシ
- 一閱覽所ヘ入場ノ節ハ必ス本票ヲ携帯スヘシ
- 一本票ハ他人ヘ轉貸スルハ勿論汚染又ハ毀損等ノコトアルヘカラズ
- 一本票ヲ遺失シタルトキハ速ニ届出ヘシ卒業若クハ退學スルトキハ本票ヲ返納スヘシ

表ニ圖書掛ノ印

備考 本票用紙厚紙ヲ以テ製ス

(二) 圖書 檢索保認證

檢索保認證

(何) 語學科 研究生 氏 名

右ヘ圖書ノ檢索ヲ承認相成度候也

明治 年 月 日

主任教授 氏 名 印

(三) 圖書 借受保認證

保認證

一 何々何冊

右今般何々 ノ教科書ニ相用ヒ

候條該生徒ヘ貸與相成度候也

明治 年 月 日

主任教授 氏 名 印

寄附

本校設置以來金員及建物ヲ寄贈セシモノ左ノ如シ

寄贈品及寄贈ノ名義

寄贈者

伊語ニ關スル圖書購求費及伊語科生徒奨學給與金

伊學協會會長侯爵鍋島直大

柔道、擊劍道場、端艇

東京外國語學校々友會長文學博士高楠順次郎

本校生徒現員

(明治三十八年十月十日)

本科生

(氏名ノ上ニ◎印アルモノハ特待生ナリ)

英語學科第三年級

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| ◎◎ 小倉二郎 (千葉) | 佐々木賢治 (大阪) | 久保尊德 (東京) |
| 阿比留 栗 (長崎) | 西村晃一 (山口) | 鎌田敬四郎 (福島) |
| 湯下惣一 (東京) | 町原重光 (福井) | 中澤藤甫 (長野) |
| ◎◎ 横地良吉 (東京) | 岸原 衛 (東京) | 小倉 鎬 (島根) |
| ◎◎ 細江逸記 (三重) | 宮治金藏 (神奈川) | 來住順藏 (兵庫) |

英語學科第二年級

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 平田 正 (鹿兒島) | 岸本光治 (大阪) | 高橋勝三 (愛媛) |
| 小松崎 茂 (茨城) | 矢野 任三 (埼玉) | 林修一 (愛知) |
| 坪井新次郎 (岡山) | 川島 任三 (埼玉) | 篠樂誠一 (東京) |
| 岡健夫 (山口) | 三月岡 豪 (福島) | 設樂真太郎 (埼玉) |
| 岡野小太郎 (茨城) | 三侯 一 (群馬) | 中村慎吾 (山形) |
| 桑折鏡次郎 (愛媛) | 安永邦弘 (愛媛) | |
-
- | | | |
|-------------|------------|------------|
| ◎ 鈴木清八 (福島) | 田中安吉 (東京) | 桑原萬之丞 (群馬) |
| 根本儀太郎 (秋田) | 金子猪八郎 (栃木) | 妹尾寛二 (岡山) |
| 大杉延雄 (静岡) | 佐伯益一 (山口) | 谷野 壯藏 (山形) |
| 河野三通士 (大分) | 森 恕一 (熊本) | 河野 孝一 (長野) |
| 田中 篤 (山形) | 渡邊 薰 (大分) | 石川 清七 (愛知) |
| 篠原増之助 (東京) | 松本 晋二 (岡山) | 河瀬 賢治 (鳥取) |
| 上田知一 (大分) | 梶川 義隆 (東京) | 山本民之助 (東京) |
| 吉本正秋 (北海道) | 高田 春作 (富山) | 山元章次郎 (滋賀) |
| 吉米地英俊 (長野) | 渡邊清三郎 (静岡) | 吉永鐵次 (熊本) |
| 松澤 有治 (佐賀) | 生明梅三郎 (群馬) | |

英語學科第一年級

寄附 本校生徒現員 英語學科第三、第二、第一年級

岡田松三郎 (愛知)	早乙女源毅 (栃木)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	藤井善次郎 (京都)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	清水善次郎 (京都)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	喜多尾秀二 (京都)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	合田亨 (新潟)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	佐久間經也 (山梨)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	小林廣正 (長野)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	赤間德壽 (富山)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	龜石慎一郎 (福岡)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	近藤春和 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)	西脇保治 (新潟)	
岸田英治 (三重)	多賀義雄 (岐阜)	
佛語學科第三年級		
岡田松三郎 (愛知)	齋藤義雄 (東京)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	山田篤郎 (島根)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	長岡慶圓 (大分)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	安水虎次 (兵庫)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	生島知二 (東京)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	大橋聖光 (茨城)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	上田鍵司 (鹿兒島)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	鳥羽多助 (佐賀)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)		
岸田英治 (三重)		
佛語學科第三年級		
岡田松三郎 (愛知)	齋藤義雄 (東京)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	山田篤郎 (島根)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	長岡慶圓 (大分)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	安水虎次 (兵庫)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	生島知二 (東京)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	大橋聖光 (茨城)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	上田鍵司 (鹿兒島)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	鳥羽多助 (佐賀)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)		
岸田英治 (三重)		

岡田松三郎 (愛知)	早乙女源毅 (栃木)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	藤井善次郎 (京都)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	清水善次郎 (京都)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	喜多尾秀二 (京都)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	合田亨 (新潟)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	佐久間經也 (山梨)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	小林廣正 (長野)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	赤間德壽 (富山)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	龜石慎一郎 (福岡)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	近藤春和 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)	西脇保治 (新潟)	
岸田英治 (三重)	多賀義雄 (岐阜)	
佛語學科第三年級		
岡田松三郎 (愛知)	齋藤義雄 (東京)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	山田篤郎 (島根)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	長岡慶圓 (大分)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	安水虎次 (兵庫)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	生島知二 (東京)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	大橋聖光 (茨城)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	上田鍵司 (鹿兒島)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	鳥羽多助 (佐賀)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)		
岸田英治 (三重)		
佛語學科第三年級		
岡田松三郎 (愛知)	齋藤義雄 (東京)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	山田篤郎 (島根)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	長岡慶圓 (大分)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	安水虎次 (兵庫)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	生島知二 (東京)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	大橋聖光 (茨城)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	上田鍵司 (鹿兒島)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	鳥羽多助 (佐賀)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)		
岸田英治 (三重)		

佛語學科第二二年級

岡田松三郎 (愛知)	早乙女源毅 (栃木)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	藤井善次郎 (京都)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	清水善次郎 (京都)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	喜多尾秀二 (京都)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	合田亨 (新潟)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	佐久間經也 (山梨)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	小林廣正 (長野)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	赤間德壽 (富山)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	龜石慎一郎 (福岡)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	近藤春和 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)	西脇保治 (新潟)	
岸田英治 (三重)	多賀義雄 (岐阜)	
佛語學科第二二年級		
岡田松三郎 (愛知)	齋藤義雄 (東京)	齋藤義雄 (東京)
榎岡徹 (山形)	山田篤郎 (島根)	山田篤郎 (島根)
三宅永之助 (京都)	長岡慶圓 (大分)	長岡慶圓 (大分)
太田真輔 (鳥取)	安水虎次 (兵庫)	安水虎次 (兵庫)
赤坂芳次 (埼玉)	生島知二 (東京)	生島知二 (東京)
藺田顯善 (山形)	大橋聖光 (茨城)	大橋聖光 (茨城)
高久甚之助 (三重)	上田鍵司 (鹿兒島)	上田鍵司 (鹿兒島)
結城喜三 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)	片山彦四郎 (福岡)
藤野武男 (長野)	鳥羽多助 (佐賀)	鳥羽多助 (佐賀)
御手洗諫一 (愛媛)	岩崎實藏 (鳥取)	岩崎實藏 (鳥取)
山口英治 (三重)		
岸田英治 (三重)		

本校生徒現員 本科生 佛語學科第三、第二、第一年級 五十七

伊藤 滋雄 (長野)	長倉 祐貞 (鹿兒島)	清水 忠三郎 (大阪)
安藤 袈裟一 (佐賀)	茂木 楠次郎 (群馬)	明澤 泰治 (東京)
西尾 秀吉 (神奈川)	船橋 周市 (愛知)	賀來 俊一 (滋賀)
竹内 純一 (兵庫)	木村 德太郎 (東京)	猪飼 國道 (長野)
堀田 正和 (東京)	今泉 清亮 (福島)	齋藤 福之助 (東京)
高澤 貞義 (富山)	松山 清之助 (神奈川)	佐久間 精一 (福島)
藤本 泰俊 (福島)	小倉 定爾 (鹿兒島)	
佐波 鐵二 (東京)	久保田 貞宏 (長野)	

獨語學科第三年級

長谷 敏 (岡山)	安田 不二磨 (岐阜)	飯田 安男 (大阪)
安立 辰彦 (東京)	石倉 一 (千葉)	山内 壽男 (栃木)
◎◎ 仁木 周藏 (新潟)	吉崎 芳男 (神奈川)	和田 增平 (山口)
◎◎ 桂木 俊真 (東京)	坂本 忠恕 (廣島)	島田 昌三 (群馬)
梅木 旻 (大分)	飯島 省一 (静岡)	寺田 敏夫 (静岡)
◎◎ 村田 正太 (高知)	富永 清人 (熊本)	古賀 圓藏 (福岡)
奥野 七郎 (富山)	田中 五郎 (廣島)	高林 盛彌 (東京)
山田 英夫 (香川)	江塚 秀四郎 (静岡)	藤原 盛信 (德島)
井土 剛之助 (福岡)	鈴木 啓介 (福島)	關口 信次 (茨城)

向井 鐵次 (兵庫)

獨語學科第二二年級

多治見 國豐 (茨城)	嶺岸 久治 (宮城)	大橋 完一 (埼玉)
池内 篤 (宮崎)	岩根 一 (山口)	野口 勝市 (佐賀)
瀧山 轍二 (廣島)	堀江 政七 (滋賀)	水野 武男 (東京)
◎ 麥倉 嘉吉 (東京)	川瀬 優二 (廣島)	新井 重禮 (新潟)
◎ 石井 禮司 (東京)	中島 隆之助 (兵庫)	中島 精一 (東京)
◎ 蔭山 公一 (高知)	伊丹 隆之助 (兵庫)	瑞穂 直 (鹿兒島)
◎ 蔭山 次郎 (福井)	立川 通雄 (東京)	南 穂三 (兵庫)
◎ 大谷 豐顯 (山形)	宇賀 彦太郎 (高知)	須藤 温 (神奈川)
◎ 宮家 壽男 (香川)	高橋 近義 (東京)	西田 祐藏 (福島)

獨語學科第一一年級

坂口 元造 (福岡)	漆山 正二 (新潟)	信國 武尙 (山口)
川南 盛利 (鹿兒島)	渡邊 恆次郎 (静岡)	大山 壽一 (秋田)
小川 豐 (高知)	岡田 善次郎 (富山)	小林 信一 (東京)
◎ 權田 保之助 (東京)	馬場 駿行 (福岡)	勝賀 瀨清 (高知)
◎ 中島 愛次 (高知)	本庄 實 (三重)	石倉 善衛 (群馬)

本校生徒現員 本科生 獨語學科第一一年級

高橋俊雄(福井)
高村道利(東京)
大場忠(宮城)
穗積茂(大分)
深澤緝(山梨)
大武格二(福井)
櫛田民藏(福島)
今野秀輔(宮城)
田島重雄(東京)
城戸幾三郎(福岡)

露語學科第三年級

高島榮作(茨城)
樺山猛一(鹿兒島)
廣瀬徹(石川)
花俣幸昌(埼玉)
島田元磨(東京)
檀野貞記(長崎)
伊丹正雄(熊本)
內藤賴吉(愛知)
甘利四郎(長野)
島田滋郎(高知)
竹內真道(北海道)
加藤潔(千葉)

上田熊生(大分)
吉田榮(福井)
辻光(福岡)
郡司智磨(北海道)
中村彌太郎(東京)
大井包高(長野)
佐藤有二(兵庫)
前田藤穗(福井)
川上秀雄(廣島)
小川基一郎(千葉)
鈴木鄰吾(静岡)
川谷幸左衛門(島根)

榎原延吉(東京)
長原顯證(石川)
野口一三郎(新潟)
荒井孫助(富山)
宮崎繁郎(長野)
川原鷹助(鹿兒島)
安村省三(岩手)
淺野高興(東京)
滿田保太郎(山梨)
篠崎正三郎(栃木)
藤井十四三(山口)

山口卓士(福井)
大里由之助(茨城)
西川正雄(熊本)
若梅純義(千葉)

露語學科第二二年級

◎高屋繁弘(青森)
永岡繁造(長崎)
野村保(東京)
小松虎喜(高知)
內藤政次(新潟)
伊藤藤信一(三重)
秋野中一(長野)

長澤泰三(東京)
九谷常恩(福井)
天野林之助(東京)
岩崎直砥(長野)
小笠原義雄(山口)
山田實(山形)
池田益宣(福岡)

中野新吾(大分)
小柳雪生(熊本)
橋口住又(鹿兒島)
藤井完次(新潟)
手塚繁也(山梨)
奥野進五郎(東京)

露語學科第一一年級

布施勝治(新潟)
井原正(島根)
穂積永頼(群馬)
田中文一(長野)
水谷可一(愛知)
野村徹(東京)
篠原政光(鹿兒島)
山内恭治(福島)

沼野鐘太郎(愛知)
溝部壽六(大分)
古川洪一(千葉)
戸村仰一(山口)
小池仰一(山口)
高橋守義(新潟)
池田定吉(奈良)

矢澤裕也(東京)
小田川小太郎(茨城)
内田善太郎(佐賀)
池田福松(大阪)
松井福勳(静岡)
高索榮之助(福島)
高橋貞吉(新潟)
梨木祐臣(京都)

本校生徒現員 本科生 露語學科第一一年級

柏木 孤矢郎 (三重) 北川 鹿藏 (三重) 野村 義郎 (三重)

鳥居 肇三 (岐阜) 黛 正見 (群馬) 田代 錦太郎 (熊本)

◎ 向原 喜祝 (鹿兒島) 山内 朝吉 (福岡) 中村 邦輔 (群馬)

◎ 館岡 久 (秋田) 松並 重朝 (滋賀)

伊語學科第二二年級 日置 貞夫 (大分) 楠川 保 (山形)

佐藤 運三 (秋田) 村瀬 義久 (埼玉) 日置 貞夫 (大分)

天笠 常太郎 (三重) 田中 忠雄 (佐賀)

伊語學科第一一年級 山田 半助 (石川)

◎ 益子 三郎 (茨城) 塚本 金治 (埼玉) 草間 功 (茨城)

◎ 伊東 虎頼 (三重) 佐藤 淨兒 (千葉) 荻部 新平 (茨城)

◎ 神田 虎雄 (山口) 宮部 次郎 (東京) 小林 次郎 (東京)

◎ 中島 東 (熊本) 平田 三五郎 (廣島) 原口 辰次郎 (佐賀)

西語學科第三年級 赤羽 信夫 (福島) 弘中 強介 (山口) 手塚 保三郎 (宮城)

◎ 馬場 稱徳 (長野) 市川 箔十郎 (東京) 島田 剛 (茨城)

◎ 沼田 宗 (宮城) 遠藤 礎 (東京) 守屋 節 (神奈川)

◎ 村上 直吉 (鹿兒島) 岡野 雷平 (長野) 栗田 泰一 (静岡)

◎ 海老名 毅介 (山口) 牧野 肅 (長野) 進藤 勝吉 (東京)

◎ 首藤 昇 (大分) 武田 辨藏 (埼玉) 中村 茂興 (神奈川)

◎ 岡田 鉦治郎 (愛知) 菅波 新一 (石川) 增田 耕作 (埼玉)

◎ 小山 義龜 (福岡) 渡邊 孝 (福島) 池田 貞瑞 (長野)

◎ 近藤 懋 (愛媛) 兒玉 吉 (山口)

西語學科第一一年級 櫻井 壽康 (群馬)

清語學科第三年級 早川 正雄 (長野) 本多 辰三郎 (東京) 益田 謙吉 (東京)

服部 邦久 (長崎) 山崎 重次 (島根) 川井 光太郎 (千葉)

本校生徒現員 本科生 西語學科第一一年級 清語學科第三年級 六十三

井原儀平(長野)	生田耕(新潟)	由月義一(兵庫)
鈴木巳之作(栃木)	松岡貞良(兵庫)	加藤正亮(茨城)
本多阿久吉(埼玉)	小沼信造(東京)	中城純亮(高知)
井手詒吉(東京)	松本隆助(埼玉)	中島純教(兵庫)
西川有味三(熊本)	種子田實(鹿児島)	三瓶守一(宮城)
西尾廣司(奈良)	三橋政明(北海道)	

友田久雄(兵庫)	村井舜造(山口)	長谷誠一(福岡)
東條義一(東京)	春田真一(徳島)	上谷庫平(兵庫)
中村梅吉(高知)	上杉謹一(東京)	高木潔(東京)
松本有隣(兵庫)	猪俣恆次郎(東京)	相良經豐(鹿児島)
倉岡岩(鹿児島)	伊原平之助(島根)	大崎幸太郎(東京)
島田千代治(山梨)	峰尾大八(東京)	清野惣吉(新潟)
平田恆太郎(東京)	吉持雄俊(鳥取)	杉浦直吉(東京)
近藤祿之甫(山梨)	吉田俊(鳥取)	藤谷三磨(滋賀)
◎◎川村小三郎(宮城)	◎◎遠山亮吉(長野)	林谷親厚(岡山)
◎◎鶴見次世(長野)	◎◎太原亮吉(大阪)	廣本光治(兵庫)
永原正雄(静岡)		後藤光愛(東京)

山田清(東京)	泉田寧(福島)	
白木清兵衛(岐阜)	小谷綱吉(愛知)	杉秀夫(福岡)
筒井武士(青森)	守谷禮三(岡山)	水谷岩三郎(新潟)
藤森勇(長野)	信岡朗一(廣島)	久志本鐵之祐(三重)
袖山貞雄(島根)	淺井正太郎(東京)	林雅藏(大阪)
村岡英隆(鳥取)	小林陽之介(東京)	小澤善兵衛(福岡)
金丸六也(宮崎)	平田欽爾(神奈川)	倉田誠一郎(福島)
木村愛香(東京)	寺田業也(新潟)	内田慈瑛(佐賀)
二村秀孝(長野)	伊藤基光(愛知)	高橋源治(福岡)
阿部善吉(宮城)	小林嘉真(山梨)	
中村精太郎(福岡)	芝文雄(愛媛)	

和喜一郎(京都)	遠山佑吉(東京)	須永茂平(栃木)
相川靈瑞(石川)	大久保清(静岡)	遠山峻(愛媛)
堀佐太郎(大阪)	岩倉貞一(宮崎)	玉木良(山梨)
岡崎進(高知)	井手貞吉(福岡)	松尾辰一(佐賀)

韓語學科第三年級

清語學科第一年級

本校生徒現員 本科生 清語學科第一年級 韓語學科第三年級 六十五

森山 靜造 (東京)

韓語學科第二二年級

◎佐々木龍真 (島根)
◎齋藤助昇 (山梨)
岸川直吉 (佐賀)
龜山猛治 (北海道)
赤司勳一 (佐賀)
鴨川清十郎 (長崎)
武原周之助 (神奈川)

大和田 矯 (宮城)
青山武男 (群馬)
加藤顯一 (廣島)
高木國則 (茨城)
市川安之進 (三重)
板橋 尊 (山形)
杉浦 齊 (静岡)

松谷 讓 (佐賀)
高岡宣次 (東京)
森家名 (鹿兒島)
瀧口亮造 (福岡)
萬田新太郎 (東京)
小田切萬吉 (廣島)

韓語學科第一一年級

高木 蕃夫 (岐阜)
山田 寬治 (新潟)
伊地知直七 (鹿兒島)
芝崎路可 (東京)
高田速夫 (岐阜)
富田愛次郎 (愛知)
志水末實 (熊本)

岡田勝利 (愛知)
瀧山靖次郎 (長崎)
栗田作四郎 (静岡)
鹽田六藏 (香川)
北村薩雄 (東京)
松脇正昇 (東京)
高尾順吉 (神奈川)

越智恆太郎 (愛媛)
關原二男 (山形)
岡田 榮 (廣島)
田川長次郎 (長崎)
山口欽之亮 (東京)
功刀孝義 (山梨)
木塚七郎 (佐賀)

選科生

英語學科第一一年級

長谷川良胤 (愛知)
古内 義 (茨城)
黒水千里 (静岡)

横山 英志 (鹿兒島)
阪東 好文 (大阪)
新井 信一 (東京)

三好 春雄 (兵庫)
村善 淳 (三重)
木村

丁 紹 飯 (清國)

佛語學科第二二年級

鷺 月 清 (千葉)

佛語學科第一一年級

熊 際 盛 (清國)

獨語學科第三年級

野中 太一郎 (新潟)

獨語學科第一一年級

本校生徒現員 選科生

楊 霆 垣(清國) 王 佩 文(清國)

露語學科第三年級

村上 常 郎(宮城) 河原崎 豐 藏(東京)
岡村 敬 三(熊本) 三 坂 繁 雄(福岡)

露語學科第二年級

八田 清 太 郎(石川) 百 尾 覺 三 郎(滋賀)
宮村 龜 一(東京) 矢 部 榮 吉(神奈川)

露語學科第一年級

關 三 郎(青森) 長 尾 博(兵庫)

加藤 眞之助(神奈川)

西語學科第二年級

進 藤 信 雄(群馬)

清語學科第三年級

成 澤 直 亮(長野) 穂 積 秀 範(三重)

清語學科第二年級

濱田 幸之助(鹿兒島) 藤澤 悌二郎(石川) 有南 宇兵衛(和歌山)

清語學科第一年級

國 分 友 喜(静岡) 長 谷 川 賢(茨城)

韓語學科第三年級

豐 島 知 吉(東京) 石 橋 義 雄(神奈川)

專修科生

英語學科第二年級

渡 邊 豐 一(廣島)	川 口 眞 清(新潟)	中 村 定 雄(千葉)
西 村 稠(島根)	伊 藤 昭 吉(香川)	服 部 連 三(福島)
植 田 稔(東京)	岡 田 昌 吉(東京)	林 部 連 三(大分)
小 澤 政 行(東京)	富 永 正 清(長崎)	釘 宮 喜 極(大分)
服 部 鏡 三郎(神奈川)	芝 塚 茂 義(福岡)	向 原 喜 祝(鹿兒島)
伊 矢 野 豐 三郎(栃木)	石 塚 久 雄(新潟)	山 内 朝 吉(福岡)
千 葉 茂(岩手)	尾 島 林 之 助(神奈川)	小 野 友 民(福島)
伊 藤 充 男(岐阜)	森 田 甫(兵庫)	荻 島 四 三 二(東京)

本校生徒現員 選科生 專修科生 英語學科第二年級 六十九

英語學科第一一年級

宮川保定(東京)	尾池禹一郎(群馬)	木村說二(兵庫)
藤卷清(東京)	眞船泰介(福島)	大津茂(東京)
川崎廉吾(佐賀)	生駒晴吉(東京)	田代正明(東京)
大竹繼九郎(岐阜)	殿前延雄(石川)	脇坂誠一(岐阜)
山岡修(東京)	大村秀太郎(東京)	安藤鎌太郎(岐阜)
丁壯猷(清國)	內藤益治郎(福井)	佐々木集寛(高知)
長誠一(福岡)	鈴木友太郎(東京)	中道長知(三重)
谷口正敏(兵庫)	岡村準一(山口)	村井一雄(石川)
嶺岸久治(宮城)	久米豐作(埼玉)	笹森章一(青森)
犬飼伸七(東京)	東條義雄(東京)	武田勝(德島)
川瀨政七(滋賀)	山高信彦(愛知)	淺石晴香(青森)
齋藤助昇(山梨)	岡田鈎(東京)	定近俊一(山口)
小笠原安太郎(和歌山)	松澤保二(群馬)	雙川喜一(東京)
百島德太郎(東京)	谷崎善三郎(東京)	芳野春吉(愛媛)
瀧口巖(奈良)	境伊勢治郎(宮城)	山田福三郎(神奈川)

高田望盛(京都)	城親政(栃木)	中山彌市(栃木)
青柳禎三(福岡)	齋藤勇(静岡)	比企員雄(愛媛)
氏江富雄(山形)	武井繁太(德島)	青木秀太郎(滋賀)
市村健三郎(新潟)	京極德治(愛知)	石原孫三郎(大阪)
露口浩治(大阪)	澤本正弘(高知)	水野菘三(東京)
古尾谷鐵太郎(神奈川)	小笠原澄(愛知)	山本眞太郎(静岡)
小山三郎(静岡)	飯田義郎(茨城)	古谷田四五郎(山口)
伊藤大三(神奈川)	川原井左司馬(茨城)	

佛語學科第二一年級

三好禪澄(香川)	今井正次(東京)	東條秀(埼玉)
竹內定吉(富山)	小野秀太郎(茨城)	中村元麿(滋賀)
井上通夫(東京)	大關久五郎(青森)	正井貞輔(兵庫)
福尾昇(島根)	太田喜二郎(京都)	渡邊劍之丞(東京)
鈴木行三(群馬)	梶田謙太郎(東京)	田島道治(愛知)

佛語學科第一一年級

川村保(東京)	西山英清(東京)	岩本勇次郎(愛媛)
鴨澤恒吉(岩手)	網野善太郎(香川)	中島濱三郎(栃木)

本校生徒現員 專修科生 佛語學科第一一年級

堀高堀持佐岡	村足川中川谷前飯石貴內	堀高堀持佐岡	村足川中川谷前飯石貴內
木田田田藤村	上立口崎川田守坂志藤	木田田田藤村	上立口崎川田守坂志藤
勇清要二熊嘉	喜恭光正喜英三	勇清要二熊嘉	喜恭光正喜英三
吉(鹿兒島)	貞(大阪)	吉(鹿兒島)	貞(大阪)
獨語學科第二二年級			
大河岡武黃近近	宮山久大木湯	大河岡武黃近近	宮山久大木湯
原田藤川藤藤	地川保塚下淺	原田藤川藤藤	地川保塚下淺
勝芳林茂茂耕	茂三太賴孫	勝芳林茂茂耕	茂三太賴孫
藏(奈良)	秋(高知)	藏(奈良)	秋(高知)
獨語學科第二二年級			
平田江鈴村湯	渡梶河田內北淺大溝絞瀧	平田江鈴村湯	渡梶河田內北淺大溝絞瀧
山延川木形川	邊川野所田條野高口島野	山延川木形川	邊川野所田條野高口島野
金太郎惣毅一助	四義隆士吉郎	金太郎惣毅一助	四義隆士吉郎
作(愛知)	郎(東京)	作(愛知)	郎(東京)

永矢	永矢	永矢	永矢
田鶴	田鶴	田鶴	田鶴
源一	源一	源一	源一
郎(茨城)	郎(茨城)	郎(茨城)	郎(茨城)
獨語學科第一一年級			
森田	森田	森田	森田
弘介	弘介	弘介	弘介
(福井)	(福井)	(福井)	(福井)
獨語學科第一一年級			
辻大	辻大	辻大	辻大
助次	助次	助次	助次
郎(愛媛)	郎(愛媛)	郎(愛媛)	郎(愛媛)
獨語學科第一一年級			
飯田	飯田	飯田	飯田
靜次	靜次	靜次	靜次
郎(福岡)	郎(福岡)	郎(福岡)	郎(福岡)
獨語學科第一一年級			
吉田	吉田	吉田	吉田
令兒	令兒	令兒	令兒
勝(兵庫)	勝(兵庫)	勝(兵庫)	勝(兵庫)

本校生徒現員 專修科 獨語學科第一二年級 七十三

辻村 貞義 (神奈川)	大賀 雄次郎 (岡山)	鈴木 凌 (宮城)
細谷 義松 (千葉)	中山 新太郎 (東京)	大澤 竹次郎 (岩手)
河野 文四郎 (大分)	佐野 志郎 (東京)	橋本 庸督 (福島)
小泉 清 (東京)	鍋島 實 (三重)	木村 兵治 (山口)
倉石 眞三 (長野)	森保 助三郎 (廣島)	久野 轍輔 (東京)
伊藤 金八 (三重)	與村 文平 (岐阜)	古田 次雄 (東京)
池田 喜助 (兵庫)	中村 道三郎 (東京)	市原 練三 (千葉)
村井 長太郎 (福井)	三浦 大造 (島根)	田中 新吉 (和歌山)
海沼 博 (長野)	宮部 勝之介 (群馬)	細川 宇右衛門 (石川)
池上 泰次郎 (長野)	吉澤 彦四郎 (埼玉)	松本 俊博 (宮城)
小島 熊太郎 (東京)	吉村 忠藏 (熊本)	里見 虎藏 (廣島)
金子 鏡男 (新潟)	井上 德次郎 (奈良)	川上 瀧男 (三重)
五十嵐 榮作 (埼玉)	宮崎 一介 (山口)	神田 源七郎 (埼玉)
西尾 芳太郎 (東京)	本多 稔 (山口)	野口 唯生 (埼玉)
海野 清 (東京)	熊谷 由一 (東京)	間中 綱彦 (東京)
廣江 恭造 (鳥取)	加藤 義三 (京都)	杉浦 直吉 (東京)
大津 源三郎 (山形)	小島 謙太郎 (茨城)	和田 二郎 (東京)
大浦 政治 (富山)	木浦 壽治 (新潟)	
春田 安三郎 (東京)	宮島 壽治 (佐賀)	

露語學科第二二年級

山本 眞太郎 (静岡) 細野 正文 (新潟)

露語學科第一一年級

渡邊 任 (福島)	阿部 頼治 (東京)	山本 素位 (福井)
澤木 富次郎 (東京)	渡邊 健 (千葉)	川村 馨 (東京)
渡邊 四郎 (東京)	宇都 又治 (長崎)	廣戸 昌 (東京)
室岡 壽正 (岩手)	疋田 盛一 (東京)	甲斐 有 (大分)
柳田 知 (福岡)	廣島 貫一 (北海道)	駒田 彌四郎 (三重)
市原 松太郎 (島根)	蓬田 大七 (宮城)	石橋 則隆 (福岡)
石和 田八郎 (東京)	高崎 忠一 (石川)	明山 保次郎 (兵庫)
田中 辰巳 (鹿児島)	竹内 嘉兵衛 (東京)	

伊語學科第一一年級

大塚 淳 (愛知) 山田 耕作 (東京)

西語學科第一一年級

宮崎 信造 (福岡) 三平 轉 (東京) 加藤 順之介 (茨城)

本校生徒現員 專修科生 露語學科第一、第二二年級 伊語學科第一、第二二年級 西語學科第一、第二二年級 七十五

遠藤庄藏(東京)
高木正則(東京)
大野基尚(大分)
氏家吉次(宮城)
伊藤節(鳥取)
橋本靜(滋賀)
小林朝治(千葉)
山田作造(東京)
勅使河原佐太郎(岐阜)

清語學科第二二年級

小澤銀次郎(東京)
遠藤重男(福岡)
遠山吉之介(愛知)
齋藤伊右衛門(東京)
荒川德一(東京)
君島源潔(福島)
林直治(埼玉)
川橋正治郎(京都)
小林源造(東京)
岡野小太郎(茨城)
佐々木三利(福井)
田淵清一兵衛(德島)
松本轍二(長野)
加藤庸三(群馬)
諸石昇造(佐賀)
津田隆(福井)
今川勝次郎(東京)
增田清鶴(山形)
津田榮(大阪)
寺境彌(東京)
福田清一(群馬)
久保清吉(鹿兒島)
光藤泰次郎(岡山)
木下茂雄(東京)
手賀勝美(群馬)
小林代次郎(東京)
富田康平(静岡)
竹中峯次郎(東京)
成田幾次郎(東京)
玉田文作(東京)
湯山半兵衛(神奈川)
鑷田信策(山形)
織畑芳藏(東京)
關口信次(茨城)
黑田富士太郎(東京)
朝比奈泰吉(兵庫)

清語學科第一一年級

市野啓太郎(新潟)
木村重藏(福島)
望月智定(静岡)
川船直次(長野)
浦田二郎(東京)
原淺太郎(山梨)
廣澤武四郎(茨城)
松田喜三郎(三重)
宍道政一郎(島根)
高橋常次郎(福岡)
下平晉郎(長野)
岩田剛郎(埼玉)
伊藤義男(長野)
關口正平(茨城)
上野良武(富山)
都鳥次郎(岩手)
木村長藏(宮城)
内山良武(富山)
小成弓次(岩手)
白井芳男(茨城)
福田榮治(埼玉)
松田濟(茨城)
鹿倉隆一(東京)
野田秀二(青森)
音羽輝雄(東京)
風戶勝三郎(千葉)
長谷川豐男(埼玉)
飯尾利昇(千葉)
高橋又治(山形)
山本寅雄(東京)
小川利行(東京)
法藤有孚(東京)
外山吉造(神奈川)
飯尾香苗(東京)
伊藤東一(岩手)
秋元直吉(東京)
海保義雄(千葉)
遠藤養三郎(宮城)
山田登實(大分)
太田猛(佐賀)
丸山胤治(福島)
湯川依彰(東京)
品川卯一(東京)
黒田茂八(富山)
池田良太郎(山形)
野本千尋(新潟)
庄田規矩郎(東京)
飯泉良三(茨城)
小川吉之助(東京)
關根世貴男(東京)
行岡宇多之助(東京)
西島德太郎(東京)
上遠野武(宮城)
鈴木我實(新潟)
松岡末廣(愛媛)
築山康(沖繩)
鈴木三郎(東京)

本校生徒現員 專修科

清語學科第一一年級

七十七

七十六

八田敏夫 (福井)	芭蕉 豊作 (東京)	小山 義龜 (福岡)
秦晴喜 (兵庫)	遠藤 佐吉 (東京)	赤司 勳一 (佐賀)
神谷 德重 (愛知)	久野 讓 (東京)	岸川 直吉 (佐賀)
奧隆三郎 (岡山)	關家 茂 (愛媛)	龜山 猛治 (北海道)
中村 米壽 (長野)	原田 八郎 (新潟)	川元 清彦 (鹿児島)
村山 常雄 (佐賀)	村中 清司 (石川)	
比佐祐次郎 (秋田)	杉原 惣太郎 (福島)	岡本 猶之助 (東京)
比木 渙 (三重)	七邊 格太郎 (岡山)	森本 玄良 (兵庫)
田中 敬正 (熊本)	和田 菊次郎 (千葉)	高木 一 (滋賀)
二町 經夫 (鹿児島)	清 録郎 (静岡)	
杉原 孫右衛門 (愛知)	新納 賢司 (東京)	

英語學科
韓語學科
獨語學科

山本 英造 (東京)	今西 喜藏 (奈良)	城谷 馬吾 (高知)
山田 藤助 (山口)	小野 宗一 (宮崎)	小川 吉雄 (新潟)
杉田 善次郎 (東京)	北村 良三 (香川)	兼弘 正雄 (鹿児島)
堀田 曉次郎 (群馬)	本多 石介 (福井)	宇都宮 浩 (大分)
中村 叔平 (長野)	長谷 省二 (三重)	上田 義雄 (大分)
齋藤 二平 (山口)	田所 正躬 (東京)	中富 敏夫 (福岡)
加藤 謙吉 (東京)	岩部 實吉 (高知)	町田 長種 (静岡)
安田 政治郎 (東京)	岩切 鳳一 (鹿児島)	
大内 敬一 (茨城)	安藤 惟一 (東京)	高木 秀雄 (佐賀)
山崎 一郎 (青森)	早川 忠哉 (山梨)	田島 清 (高知)
齋藤 武夫 (岡山)	西村 潤藏 (神奈川)	小枝 指健 (岩手)
山口 鏢次郎 (新潟)	北島 耕造 (静岡)	吉良 歌吉 (高知)
河合 義一 (兵庫)	青木 英彦 (東京)	町田 梓樓 (長野)
川治 庄太郎 (福井)	館村 甚治 (石川)	

本校生徒現員 研究生 英語學科 佛語學科 獨語學科

青山民子雄(東京)
 莊直一(岡山)
 西原泉之助(愛媛)
 大谷基輔(東京)
 中溝多摩吉(東京)
 小笠原昌齋(山梨)
 飯島道脩(東京)
 谷與一(岡山)
 渡邊格太郎(福岡)
 網島清治郎(新潟)
 橫井忠吉(大分)
 外山高(東京)
 竹崎虎惣太(高知)
 國岡三樹(福島)
 高辻豐(埼玉)
 村上竹藏(福岡)
 魚住清適(東京)

露語學科

伊崎千秋(岐阜)
 大江久太郎(香川)
 佐和彌一郎(群馬)
 山岡光太郎(廣島)
 川角忠雄(愛知)
 栗原信男(東京)
 高畑誠一(香川)
 谷村清兵衛(富山)
 諸岡三郎(長崎)
 白河村盛吉(鹿兒島)
 家藤盛明(愛知)
 加藤藤明(愛媛)
 藤井董(長野)
 城子悌二(福岡)
 十時惟親(福岡)
 島田正靖(高知)
 新井三郎(群馬)
 木村三恪(愛知)
 有門勇平(福岡)
 木下秀男(東京)
 中尾信一(廣島)
 平下良之助(東京)
 黑柳良之(和歌山)
 平田辰彦(大分)
 三ヶ尻邦(佐賀)
 酒井泉(佐賀)

伊語學科

有島壬生馬(東京)
 堀武三(京都)
 豐島昌(茨城)

西語學科

木村儀一郎(新潟)
 秦正雄(三重)
 赤塚啓一(新潟)
 永原勉(東京)
 渡邊周三郎(栃木)
 飯野佐一(愛知)
 春日廓明(東京)
 辻駒一郎(佐賀)
 中村良太郎(和歌山)
 坂上豐司(群馬)
 佐藤長和(茨城)
 長谷川長和(茨城)

清語學科

稻葉要作(静岡)
 秋山昱禧(山梨)
 山崎淳一郎(佐賀)
 里見庸三(栃木)
 樋口勝三(三重)
 正崎肇(鳥取)
 内藤惟行(愛媛)
 蒲藤勳一(佐賀)
 中村準輔(山口)
 小網仁三郎(群馬)
 山元敬二(鹿兒島)
 澁谷樵造(高知)
 品治貞(香川)
 島田翰(東京)
 高江正庸(鹿兒島)
 竹内午郎(東京)
 東海林光治(神奈川)
 軸丸卓爾(福岡)
 宮越健太郎(新潟)
 齋藤孝太郎(宮崎)
 神谷衛平(東京)
 木川加一(廣島)
 小松光治(大阪)
 遠山猛雄(茨城)
 綾部德次郎(茨城)
 須古純造(佐賀)
 柳谷鏡也(秋田)
 小田廣志(栃木)
 浦山保壽(高知)
 小川文之助(佐賀)

本校生徒現員 研究生 露語學科 伊語學科 西語學科 清語學科 八十一

佐久間 鏡次郎 (佐賀) 加美山 壽 (宮城) 長谷 理 教 (山形)
 近田 美喜太郎 (愛知) 浦瀬 豊治郎 (長崎)

韓語學科

本多 寬三 (福井) 岸本 德三郎 (兵庫) 田中 良之 (埼玉)
 河野 小七郎 (佐賀) 武間 卓一 (兵庫) 堀江 三郎 (佐賀)
 末永 健一 (東京) 曲 主馬 (福岡) 島田 慶三郎 (東京)

本校生徒年齢表

科	別	最		低	平	均
		高	最			
本科	第一年度	三三、一	一六、八	二〇、七		
	第二年度	二七、五	一八、六	二二、三		
	第三年度	三〇、七	一九、	二二、九		
專修科	第一年度	四九、九	一四、三	二五、三		
	第二年度	五〇、二	一八、	二六、		

本校卒業生及其就業ノ場所

明治三十三年七月第一回本科卒業生

英語學科 (十人)

東京外國語學校教授 第五臨時教員養成所教授 片山 寬 (長野) 陸軍歩兵中尉 森川 乙猪 (高知)
 陸軍歩兵中尉 星野 幹 (東京) 山形縣山形中學校教諭 高野 圭一 (茨城)
 中央大學講師 松浦 與三松 (福井) 函館商業學校教諭 奥坂 角太郎 (徳島)
 三重縣第三中學校教諭 渡邊 謙二 (三重) 陸軍通譯 長 連 樹 (石川)
 福岡縣嘉穂中學校長 芹澤 政・衛 (静岡) 荏原中學校教師 星野 政吉 (東京)

佛語學科 (三人)

瀧村 立太郎 (東京) 大阪市明星中學校教諭 二宮 猪 象 (香川)
 宮崎 幹太郎 (大阪)

獨語學科 (七人)

東京外國語學校助教授 田代 光雄 (東京) 死亡 久野 英一 (愛媛)
 學習院講師 安樂 直治 (鹿児島) 死亡 中村 達雄 (山口)
 東京府第一中學校教諭 弓削 久兵衛 (千葉) 上村 哲二 (鹿児島) 井手 岩吉 (佐賀)

露語學科 (六人)

外務省記者 (獨逸) 伯林公使館在勤)

本校卒業生及其就職ノ場所 第一回本科卒業生

姫路俘虜收容所付通譯 鈴木尙三(東京) 陸軍通譯
 外務省通譯 山口爲太郎(愛知) 第二師團付
 陸軍通譯 古澤幸吉(北海道) 陸軍通譯
 秋元義親(東京)
 田中乙(福井)
 篠藤三平(埼玉)

西語學科 (三人)

東京貯藏銀行員 厚見元治(兵庫) 自家營業 伊東信一(愛知)
 東京外國語學校助教 金澤一郎(兵庫)

清語學科 (九人)

東京外國語學校教授東京 岡本正文(愛媛) 陸軍通譯 河崎武(熊本)
 高等商業學校講師 在清國芝罘 上田三德(東京) 外務書記生(在清國長沙日) 宮内元(千葉)
 死亡 齋藤勝治(佐賀) 陸軍通譯 滿永鐵太(熊本)
 死亡 寺本寅彦(熊本) 本校研究生 島田翰(東京)
 清國天津北清稅關在勤 佐藤新太郎(山形)

韓語學科 (三人)

外務書記生(在釜山) 山口有信(愛知) 臺北測候所技手 重嶺一祐(山口)
 日本領事館在勤 東京外國語學校教授 本田存(東京)

明治三十四年七月第二回本科卒業生

英語學科 (十一人)

東京外國語學校助教 上條辰藏(長野) 大分縣中津中學校教諭 尾上瀧太郎(福岡)
 大阪瓦斯株式會社員 青柳幹一(山梨) 南洋移民會社員(在クイ) 高岡讓(福岡)
 廣島縣廣島中學校教諭 中國修吾(神奈川) (香港支店在勤) 陸軍歩兵中尉 齋藤千之(兵庫)
 滋賀縣第二中學校教諭 古賀十二郎(長崎) 長崎縣中學校島嶼學館教諭 平井隼之助(大阪)
 高知縣海南中學校教諭 隈川豐(東京) 伴野八朗(兵庫)

佛語學科 (九人)

尾花繁太郎(德島) 名古屋陸軍地方幼年學校講師 兒玉彌彦(鹿児島)
 外務書記生(韓國群山) 成島朝一(静岡) 三井物産會社 巖谷春生(滋賀)
 日本領事館在勤 武村元藏(東京) 農商務屬 松本俊造(千葉)
 在滿州安東縣 平岡七郎(静岡) 象潟九事務員 鶴來和之(東京)
 加藤秀郷(三重)

獨語學科 (五人)

陸軍々醫 太田爲治(京都) 死亡 原村五郎(東京)
 法科大學講師 磯山健(茨城) 第十一師團講師 佐々木常三郎(宮城)

本校卒業生及其就職ノ場所 第二回本科卒業生

丸 勝 藏 (千葉)

露語學科 (十人)

陸軍通譯 井田 孝平 (東京) 陸軍通譯 鈴木覺太郎 (宮崎)
 三井物産會社員(奉天支店在勤) 長谷川 作次 (石川) 陸軍通譯 島田嘉一郎 (埼玉)
 陸軍通譯 飯田 愿 (宮城) 陸軍通譯 菅野金三郎 (佐賀)
 陸軍通譯 河村 松 (岐阜) 陸軍通譯 和泉良之助 (茨城)
 東京外國語學校助教授 五十嵐 清 (岡山) 陸軍通譯 近藤實五郎 (神奈川)

西語學科 (五人)

大藏屬 平松輝太郎 (三重) 死亡
 熊本移民會社員(在メキシコ) 桑原 眞義 (熊本)
 農商務省海外派遣實業練習生(在メキシコ) 森 醇 一 (佐賀)

清語學科 (十一人)

橫濱正金銀行員(北京支店在勤) 古賀 邦彦 (佐賀) 海軍通譯 池田良榮 (高知)
 在清國貴州 岩原大三郎 (東京) 死亡 曾谷健吾 (廣島)
 陸軍通譯 糟谷 好助 (埼玉) 橫濱正金銀行員(清國牛莊在勤) 永野武馬 (長崎)
 日本毛織物會社員(天津支店在勤) 船橋甚兵衛 (兵庫) 陸軍通譯 阿部生居造 (群馬)

三井物産會社員(韓國京城明洞支店在勤)

韓語學科 (四人)

蔭山石五郎 (德島) 通信書記 青柳義作 (新潟)
 奧津 銀平 (群馬)
 天野雄之輔 (滋賀) 在韓國 加藤勝之助 (愛知)
 江崎 精一 (愛知) 自家營業 西田 禎一 (大分)

明治三十五年七月第三回本科卒業生

英語學科 (十九人)

京都府第一中學校教諭 大橋 榮三 (東京) 北海道炭礦會社員 小野 清一 (東京)
 東京外國語學校助教授 宮崎 謙平 (北海道) 朽木縣真岡中學校教諭 野田久三郎 (大阪)
 新潟縣柏崎中學校教諭 山本 英造 (東京) 鹿兒島商業學校教諭 湯 淺 實 (東京)
 陸軍歩兵少尉 伊藤 常重郎 (三重) 三井物産會社門司支店員 鈴木 利 貞 (佐賀)
 兵庫縣篠山中學校風鳴義塾教師 伊藤 正胤 (高知) 鳥取縣第一中學校教諭 桂田 次郎 (島根) 秋元 正 四 (東京)
 鳥取縣第一中學校教諭 關 善 八 (熊本) 早稻田商科大學生 御子柴 賴一 (長野) 野口兼太郎 (東京)
 三井物産會社員(濠洲シドニ本在勤) 淵 上 巖 (福岡) 富山縣高岡商業學校教師村 岡 壽 春 (鳥取)
 大阪島商會員 並 河 昭 廣 (滋賀)

本校卒業生及其就職ノ場所 第三回本科卒業生

橫濱正金銀行桑港支店員宮島孫三郎(長野)

佛語學科 (十七人)

東京外國語學校講師 中川 豆介(東京)
 陸軍士官學校助教 石谷 貴矩(三重)
 東京外國語學校助教 若林 耿介(茨城)
 大阪稻畑商店員 淺野 千里(長崎)
 遞信屬(在上海) 佐藤 武則(長野)
 三井物產會社員 西山 德太郎(東京)
 橫濱正金銀行員(佛國 里昂府在勤) 小田 清吉(東京)
 東京帝國大學文科大學生 守 經 雄(東京)
 高本 利 雄(沖繩)

成女學校講師(婦人界 編輯主任)
 農商務屬
 京都帝國大學法科大學生
 橫濱正金銀行員
 東京砲兵工廠在勤

小島 文八(静岡)
 矢橋 春造(京都)
 笈田 敏野(福井)
 吉 田 衡(福井)
 高木 正 次(千葉)
 松 島 榮(静岡)
 井上 彌二郎(東京)
 塩山 要 正(東京)

獨語學科 (九人)

第七高等學校造士館助教 堀田 正次(宮城)
 三井物產會社員 丹 羽 弘(愛知)
 日本銀行員 山本 開 作(神奈川)
 名古屋地方幼年學校講師 蘆塚 利 仲(長崎)
 笠原 正 樹(長崎)

一年志願兵
 關西大學講師
 東京瓦斯會社員

青山 民子雄(東京)
 齋木 延次郎(廣島)
 井門 荒三郎(熊本)
 田中 正 之(東京)

露語學科 (七人)

海軍通譯 股野 貫之(兵庫)
 陸軍通譯 久網 小次郎(愛知)
 陸軍通譯 市川 寅次郎(福岡)
 陸軍通譯 平塚 若 麿(茨城)

姫路俘虜收容所通譯
 陸軍通譯
 陸軍通譯

竹内 秀三(長崎)
 村田 乙三郎(東京)
 池田 總太郎(東京)

伊語學科 (四人)

東京外國語學校助教 栗田 三 吾(東京)
 橫濱スタンダード石油會社員 宇野 鐵 二(愛知)

外務通譯生(メキシコ在勤)
 小林 武 麿(京東)
 永井 義 麿(神奈川)

西語學科 (六人)

波佐 谷 慶發(北海道)
 竹下 末 吉(島根)
 南 喬 一(兵庫)

死亡
 三井物產會社員

岡田 庫次(岐阜)
 四枝 綱 吉(鹿児島)
 渡邊 三 彦(栃木)

清語學科 (八人)

陸軍通譯 增 井 茂 松(三重)
 橫濱正金銀行員(清國 牛莊支店在勤) 石垣 光 義(東京)
 橫濱正金銀行員(清國 天津支店在勤) 松村 孫 一(埼玉)
 林 要 五郎(北海道)

大阪商船會社員(漢口支店詰)
 大阪商船會社員(漢口支店)
 陸軍通譯

大部 八洲夫(茨城)
 高島 長 治(福井)
 堀田 延千代(大阪)
 松本 士 農夫(福井)

本校卒業生及其就職ノ場所 第三回本科卒業生

韓語學科 (九人)

外務屬書記生(韓國鎮南浦在勤) 山本恒太郎(東京)
 陸軍通譯 木下 蕃(福井)
 死亡 多田謙三(長野)
 京釜鐵道會社社員(在京城) 福原資孝(栃木)
 京釜鐵道會社社員 伊東四郎(東京)

陸軍通譯
 陸軍通譯

秋吉英三(東京)
 國方章二(香川)
 樫村武雄(茨城)
 小野雄志(岡山)

明治三十五年七月選科修了生

韓語學科

自家營業(在韓國京城) 井上安次郎(京都)

明治三十六年第四回本科卒業生

英語學科 (六人)

高知縣中學海南學校教諭 太田立助(京都)
 茨城縣下妻中學校教諭 錦織房之助(宮城)
 兵庫縣小野中學校教諭 青木松之丞(島根)

三井銀行員
 高田商會員
 東京帝國大學圖書館助手小山田千代壽(青森)

赤羽作郎(長野)
 熊田敏(滋賀)

佛語學科 (九人)

三菱神戸支店員 齋藤武夫(岡山)
 三井物產會社社員 島田勝之助(東京)
 死亡 尾藤龍雄(愛知)
 實業 池田政雄(鹿児島)
 外務省留學生 喜多川清(東京)

東京帝國大學法科大學選科生 山崎一郎(青森)
 茨城縣下妻中學校教諭 大內敬一(茨城)
 田久保昌雄(熊本)
 小西喬一(和歌山)

獨語學科 (十五人)

東京府第一中學校教員 大槻正人(東京)
 在米國エフンストン大學北條力之助(静岡)
 日本鐵道會社社員 富井泰(兵庫)
 桐川攝(千葉)
 函館稅關吏 赤尾友三郎(富山)
 金澤醫學專門學校助教授金原三郎(静岡)
 帝國大學文科大學撰科生稻坂秀松(石川)
 秋元喜久雄(静岡)

東京帝國 早乙女新二(東京)
 愛國生命保險會社社員 里見太(長野)
 內務屬 武田爲次(宮崎)
 日本銀行員 蟲明嘉源次(岡山)
 三井物產會社大阪支店員中 金井俊英(長崎)
 宮内省式部官 島龜彦(東京)
 海江田虎次郎(東京)

露語學科 (十七人)

本校卒業生及其就職ノ場所 選科修了生 第四回本科卒業生

陸軍通譯 清水三三(山梨)
 陸軍通譯 川角忠雄(愛知)
 陸軍通譯 山下義雄(山梨)
 陸軍通譯 櫻井又男(熊本)
 丸龜俘虜收容所通譯 鈴木相之助(福井)
 陸軍通譯 松田 衛(大分)
 陸軍通譯 鈴木新吉(東京)
 松山俘虜收容所通譯 八木明昌(東京)
 陸軍通譯 緒方整肅(熊本)

郵船會社員 藤井孝八郎(栃木)
 陸軍通譯 羽中田諄策(山梨)
 陸軍通譯 剛崎虎雄(熊本)
 淺羽 卿(東京)
 伊崎千秋(岐阜)
 木暮謙二(群馬)
 鮎具冬雄(長野)
 水野島次郎(愛知)

清語學科 (九人)

大阪商船會社員(清國 漢口支店在勤)
 出征中死亡 佐藤 敏治(東京)
 陸軍通譯 倉澤 保(東京)
 建物會社員(清國天津支店在勤)
 諸岡三郎(佐賀)
 大阪商船會社員(福州支店在勤)
 菊川龜次郎(熊本)

日本郵船會社員(清國 上海支店在勤)
 陸軍士官學校講師 梅村 美誠(神奈川)
 臺灣銀行員 宇佐美右之(東京)
 八木直藏(静岡)
 寺田由衛(愛媛)

韓語學科 (一人)

陸軍通譯 藤戶計太(長崎)

明治三十七年第五回本科卒業生

英語學科 (十六人)

栃木縣佐野中學校教諭 今西喜藏(奈良)
 陸軍通譯 長谷省三(三重)
 スタンダート石油會社員堀 曉三(廣島)
 福井縣武生中學校教師 本多石介(福井)
 新潟縣長岡中學校教諭 小野 越(静岡)
 帝國生命保險會社員 加唐謙吉(東京)
 三菱合資會社員 角田松次郎(群馬)
 秋田縣本庄中學校教諭 中村叔平(長野)

栃木縣真岡中學校教諭 山田藤助(山口)
 島根縣第一中學校教諭 松本 肇(島根)
 福岡縣福岡商業學校教諭松 田宗一(宮崎)
 三菱合資會社員 安田政治郎(東京)
 札幌中學校教諭 齋藤二三(山口)
 海軍通譯 北村良三(香川)
 新潟縣柏崎中學校教諭 清水家助(兵庫)
 愛知縣第三中學校教諭 杉田善次(東京)

佛語學科 (十二人)

本校研究生 西村潤藏(神奈川)
 大倉組店員 道明英次(東京)
 日本銀行員 河合義一(兵庫)
 若月龍次郎(茨城)
 横濱オツベネミール商會員 川治庄太郎(福井)

在米國 早川忠哉(山梨)
 本校研究生 山口鏢次郎(新潟)
 小林林次郎(群馬)
 安藤惟一(東京)
 米國貿易會社員 水澤 定(東京)

本校卒業生及其就職ノ場所 第五回本科卒業生

農商務省在勤

下川 正治 (東京)

北島 耕造 (静岡)

獨語學科 (十一人)

東京風雲堂店員
千葉醫學專門學校講師
在清國青島
神奈川縣通譯
獨逸學協會學校教師
帝國大學法科大學生

伊藤 英樹 (高知)
飯島 道脩 (東京)
西原 泉之助 (愛媛)
大谷 基輔 (東京)
小笠原 昌齋 (山梨)
渡邊 格太郎 (福岡)

橫濱フコイト商館員
第五高等學校講師
東京大成學館教員
臺灣銀行員
陸軍省翻譯掛

谷 與一 (岡山)
莊 直一 (岡山)
網島 清次郎 (新潟)
中溝 多摩吉 (東京)
黑塚 壽一 (佐賀)

露語學科 (十三人)

陸軍通譯
陸軍通譯
陸軍通譯
出征中死亡
出征中死亡
陸軍通譯
陸軍通譯

石井 良直 (北海)
飯泉 孫次郎 (茨城)
大江 久太郎 (香川)
竹 津 樸 (石川)
長 澤 貞 (栃木)
植田 一夫 (神奈川)
熊谷 直吉 (秋田)

陸軍通譯
陸軍通譯
陸軍通譯
函館商業學校教諭
陸軍通譯
出征軍人

山岡 光太郎 (廣島)
牧野 左馬三 (大分)
兒玉 豐彦 (鹿兒島)
栗原 信男 (東京)
佐和 彌一郎 (群馬)
北島 常晴 (東京)

伊語學科 (四人)

神奈川縣屬
海軍水路部勤務

石田 善太郎 (東京)
濱口 光雄 (三重)

東京外國語學校書記
在伊太利國

吉田 彌平 (徳島)
有島 壬生馬 (東京)

西語學科 (十八人)

南洋貿易會社員(在勤)
大陸殖民合資會社
メキシコ移民監督
農商務省海外派遣
實業練習生(在アルゼンチン)
移民監督學校教員
本校研究生

飯野 佐一 (愛知)
伊東 正雄 (大分)
泰 正 雄 (三重)
渡邊 周三郎 (栃本)
永原 勉 (東京)

橫濱稅關屬
本校研究生
本校研究生
炭礦鐵道會社員
米國留學

福島 末光 (三重)
赤塚 啓一 (新潟)
木村 儀一郎 (新潟)
日野 爲三郎 (廣島)
森 米 八 (長崎)

清語學科 (十八人)

陸軍通譯
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

稻葉 要作 (静岡)
品 治 貞 (香川)
高江 正 庸 (鹿兒島)
竹 內 午 郎 (東京)
中村 準 輔 (山口)
內藤 惟 行 (愛媛)
山崎 淳 一郎 (佐賀)
山田 吾 郎 (静岡)

陸軍通譯
同
警視廳囑託
飯田組店員(天津支店詰)
陸軍通譯
第一銀行員
陸軍通譯

山 元 敬二 (鹿兒島)
小網 仁三郎 (群馬)
秋 山 昱 禧 (山梨)
里 見 庸 三 (栃木)
福 岡 勳 一 (佐賀)
志 岐 吉 彦 (沖繩)
澁 谷 樵 造 (高知)
正 橋 勝 (鳥取)

本校卒業生及其就職ノ場所 第五回本科卒業生

同 樋口 勝(三重) 同 鈴木準繩(福井)

韓語學科 (三人) 天谷 操(東京)

自家營業 本多寬三(福井) 陸軍通譯

海軍通譯 河野小七郎(佐賀)

明治三十七年七月選科修了生

佛語學科 (二人)

北島 耕造(静岡) (學力檢定ノ上本科卒業證書ヲ授與ス)

獨語學科 (二人)

武田 久吉(東京)

松岡 彦野(熊本)

露語學科 (二人)

大倉 勳夫(東京) 松山俘虜收容所通譯 神谷 薫(北海道)

明治三十八年七月第六回本科卒業生

英語學科 (十九人)

栃木縣太田原中學校教諭 岩切 鳳一(鹿兒島) 宮城縣仙臺第一中學校教諭 宇都宮 浩(大分)

熊本縣濟々豐玉名中學校分枝教諭 井上 正直(愛媛) 廣島商業學校教諭 上田 義雄(大分)

文部省文書課屬 石黒覺太郎(東京) 大阪商品陳列所員 町田 長種(静岡)

實業 西尾宣次郎(大阪) 自家營業 藤本 次郎(愛媛)

橫濱サミエールサミエール商會員 小川 吉雄(新潟) 兵庫縣伊丹中學校教諭 淺野 寅次郎(岐阜)

私立青山女學院教師 兼弘 正雄(鹿兒島) 宮城縣古川中學校教諭 吉良 馬吾(高知)

東京帝國大學文科大學撰科生 田所 正躬(東京) 三井物産會社員 穴戶 千穎(愛媛)

日本郵船會社員 中富 敏夫(福岡) 神戶イリス商會員 城 谷 默(東京)

橫濱ベツセル商會員 奈古屋英馬(山口) 仙波 重義(福岡)

長野縣長野中學校教諭 南部 實吉(高知)

佛語學科 (十四人)

土居 晴見(高知) 內閣屬 小技指健造(岩手)

龜割 睦男(長野) 遞信屬 青木 英彦(東京)

館村 甚治(石川) 農商務屬 吉良 歌吉(高知)

本校研究生 高木 秀雄(佐賀) 正金銀行員 宮本 文彌(埼玉)

遞信屬 田口 作郎(秋田) 九州炭礦會社員 平瀬 保之助(福井)

本校研究生 田島 清(高知) 遞信屬 森田 安吉(香川)

本校研究生 町田 梓樓(長野) 遞信屬 魚住 清適(福井)

本校卒業生及其就職ノ場所 第六回本科卒業生

獨語學科 (八人)

文科大學撰科生
法科大學撰科生
長崎高等商業學校講師
兼同醫學專門學校講師

塙 信吉 (茨城)
外山 高一 (東京)
横井 忠吉 (大分)
高辻 豊 (埼玉)

横濱ウヰンクラ一商館員
本校研究生

竹崎虎惣太 (高知)
村上竹藏 (福岡)
國岡三樹 (福岡)
鈴木正武 (福岡)

露語學科 (二十四人)

陸軍通譯
同 家村盛吉 (鹿児島)
同 十時惟親 (福島)
同 加藤明 (高知)
同 谷村清兵衛 (富山)
同 高畑誠一 (香川)
同 中尾秀男 (東京)
同 浪江良平 (埼玉)
同 黒柳良之助 (東京)
同 藤平文藏 (岩手)
同 藤井董 (愛媛)
同 有門勇平 (福岡)

同 新井三郎 (群馬)
同 佐藤寛 (福井)
同 酒井醇 (静岡)
同 酒井泉 (佐賀)
同 木村恪 (愛知)
同 木下蕃 (廣島)
同 三ヶ尻邦彦 (大分)
同 白河太司 (新潟)
同 城子憐二郎 (長野)
同 島田正靖 (高知)
同 平田稔 (和歌山)

同 平下信一 (廣島) 同 諸岡三郎 (長崎)

伊語學科 (七人)

農商務省海外派遣實業練習生 (在伊國ミラノ)
本校研究生
農商務省海外派遣實業練習生 (在南米ブラジール) 國

磐瀬三郎 (東京)
堀武三 (京都)
豊島昌 (茨城)
大平善太郎 (三重)

横濱フレント商會員

中島胤男 (大分)
長岡乙彦 (東京)
天雄 (東京)

西語學科 (八人)

東洋汽船會社員
本校研究生
東洋汽船會社員

長谷川長和 (茨城)
春日廓明 (東京)
田中勘四郎 (愛知)
辻駒一郎 (佐賀)

東洋移民會社員

中村清 (徳島)
福田卯吉 (廣島)
佐藤豊司 (群馬)
坂上良太郎 (和歌山)

清語學科 (二十七人)

陸軍通譯
正金銀行天津支店員
陸軍通譯

長谷理教 (山形)
遠山猛雄 (茨城)
近田美喜太郎 (愛知)
小山田廣志 (栃木)

正金銀行員 (牛莊支店詰)
陸軍通譯
陸軍經理學校講師
陸軍通譯

岡村節 (鳥取)
小川文之助 (佐賀)
神谷衛平 (東京)
加美山壽 (宮城)

本校卒業生及其就職ノ場所 第六回本科卒業生

同	太宰文平(愛媛)	同	齋藤孝太郎(宮崎)
同	中島久雄(佐賀)	同	佐久間鐵次郎(佐賀)
同	浦保壽(高知)	殖民學校講師	木川加一(廣島)
同	浦瀬豐次郎(長崎)	陸軍通譯	三宅芳雄(熊本)
同	野村常治(宮城)	司法省囑託	宮越健太郎(新潟)
同	大倉組店員(天津支店詰)柳谷鐵也(秋田)	代々木商店員	東海林光治(神奈川)
陸軍通譯	甲賀三郎(静岡)	陸軍通譯	清水豐一(長野)
同	小松光治(大阪)	長崎高等商業學校講師	軸丸卓爾(福岡)
同	綾部徳次郎(茨城)		須古純造(佐賀)
同	齋藤文雄(新潟)		

韓語學科 (十人)

陸軍通譯	堀江三郎(佐賀)	陸軍通譯	武間卓一(兵庫)
陸軍通譯	渡邊倉藏(福島)	印刷局書記	近藤信一(千葉)
海外貿易從事	田中良之(埼玉)	陸軍通譯	岸本徳三郎(兵庫)
	村上安造(東京)	海軍通譯	島田慶三郎(東京)
陸軍通譯	曲主馬(福岡)	陸軍通譯	末永健一(東京)

明治三十八年七月選科修了生

英語學科 (二人)

中央商業學校講師 工藤慧達(熊本)

佛語學科 (三人)

大杉榮(愛知) 文科大學撰科生

自家營業 吉岡七郎(東京)

露語學科 (三人)

陸軍通譯 原田三平(山口) 函館税關吏

西語學科 (一人)

野村明(北海道)

大阪商船會社々員 半田虎雄(東京)

清語學科 (四人)

陸軍通譯 茅野房次郎(千葉)

吉増宏(神奈川)

韓語學科 (一人)

志村義夫(群馬)	白川資長(東京)	倉岡義三(北海道)	上野政治(栃木)	鈴木重彦(鹿児島)
----------	----------	-----------	----------	-----------

選科修了生

百一

中島直吉(静岡)

本校別科(後專修科)修了生

明治三十二年七月第一回別科修了生

英語學科 (十二人)

高橋行次(滋賀)
野一色千七郎(静岡)
黒川善一(東京)
岡田明達(愛知)
大西成太(香川)
黒田茂次郎(長崎)

佛語學科 (九人)

服部邦光(長崎)
歸山信順(石川)
宮城大太郎(千葉)
大野若三郎(神奈川)

三宅貞齋(東京)
園田辰三郎(東京)
小山英吾(東京)
小山市太郎(東京)
松下專吉(静岡)
浦壁長富(東京)

山内健吉(岐阜)
金光泰(大分)
新原俊秀(宮崎)
鈴木彌次平(静岡)

松原常次郎(東京)

獨語學科 (六人)

幸田成友(東京)
榎岡定(熊本)
中村平作(新潟)

露語學科 (二人)

澤井才治(新潟)

西語學科 (二人)

津田弘季(岡山)

清語學科 (六人)

日高賢吉郎(長崎)
小川運平(埼玉)
鎌田彌助(鹿児島)

宮田義敬(東京)
澤田御義(神奈川)
田崎復(東京)
田中與五郎(大阪)

渡邊清(東京)

加納政太郎(東京)
泉永信太郎(千葉)
坂野竹之助(茨城)

明治三十三年七月第二回別科修了生

本校別科修了生 第一回別科修了生 第二回別科修了生

英語學科 (六人)

田中虎雄(埼玉)
的場 佛(和歌山)
高比良勝二(長崎)

大崎隼太郎(東京)
中川源三郎(京都)
鳥越 盛(佐賀)

佛語學科 (三人)

神谷龍彦(愛知)
井出 哲(東京)

吉田六之助(千葉)

獨語學科 (九人)

今 福 忍(神奈川)
杉山正治(東京)
堀 常次郎(岐阜)
中島松次郎(茨城)
德永昌美(東京)

岩崎半次(茨城)
山田又市(新潟)
歌原兼良(愛媛)
磯野清助(東京)

露語學科 (三人)

岡部重一郎(東京)

佐伯迅二郎(和歌山)

松尾長之助(佐賀)

西語學科 (一人)

堀口福彦(岡山)

清語學科 (七人)

田中慶太郎(京都)
中島比多吉(埼玉)
佐藤長次郎(埼玉)
福崎三次郎(鹿児島)

高岩勘次郎(福岡)
龜山 玄明(岐阜)
大久保家道(東京)

明治三十四年七月第三回別科修了生

英語學科 (五人)

錦織房之助(宮城)
香川敦太郎(愛媛)
松井英一郎(岐阜)

枝 正 八(茨城)
久保清太郎(徳島)

佛語學科 (三人)

本校別科修了生 第三回別科修了生

三戸頼猷(山口)
上條辰藏(長野)

徳岡梅吉(鳥取)

獨語學科 (八人)

酒井政吉(石川)
乙竹岩造(三重)
福井久造(兵庫)
川島庄一郎(和歌山)

新海吉兵衛(長野)
上田長藏(京都)
可兒徳(岐阜)
片山外與作(東京)

露語學科 (二人)

長野豊彦(大分)

酒井恒矢(山形)

伊語學科 (一人)

平松幾比古(和歌山)

西語學科 (一人)

鈴木三郎(千葉)

清語學科 (十七人)

皆川秀孝(茨城)
大橋末彦(東京)
高比良勝二(長崎)
菊地三九郎(東京)
岸峯治郎(鳥取)
小澤銀十郎(長野)
關菊麿(京都)
成田文太夫(宮城)
岡田瓢(長野)

太田繁(東京)
菊川龜次郎(熊本)
白藤芳夫(東京)
稻澤珍三郎(宮崎)
唐澤祐慶(東京)
中田金次郎(東京)
大久保宜家(東京)
村上久吉(東京)

韓語學科 (一人)

井上安次郎(京都)

明治三十五年七月第四回別科修了生

英語學科 (十六人)

伊東猷密(福島)
内藤明延(東京)
山崎正身(高知)

宮定平(廣島)
古谷鐵之助(東京)
西村惠治郎(滋賀)

本校別科修了生 第四回別科修了生

星野鏡造(東京)
山中寛次郎(滋賀)
與謝野修(京都)
多羅間政輔(山口)
君塚一(東京)

佛語學科 (十四人)

田村保三(千葉)
山下安太郎(埼玉)
淺井義嗣(愛知)
岡田武松(千葉)
白井傳三郎(長野)
高岩勘次郎(福岡)
寺島成信(山形)

獨語學科 (十五人)

久保田敬一(兵庫)
工藤武城(熊本)
中島田人(北海道)

加賀川市松(兵庫)
野本彌生八(和歌山)
野田爲太郎(鳥取)
秋山運四郎(宮城)
鈴木孫太郎(静岡)

有吉秀太(山口)
齋藤久孝(兵庫)
關次郎(長野)
鹿野岩次郎(石川)
佐藤純太郎(石川)
三谷氏郎(香川)
阿部景毅(宮城)

高橋祐治(大阪)
毛利祐吉(石川)
篠田良二(長野)

菊地房三郎(大分)
折原吉之助(東京)
樋口兼治(東京)
伊藤弘一(千葉)
中條道次郎(千葉)

露語學科 (五人)

軍地五郎(茨城)
大倉勳夫(山形)
稻澤珍三郎(宮崎)

伊語學科 (一人)

森田鐵三郎(新潟)

清語學科 (十一人)

宅野潔(山口)
桑原壽一(山口)
赤澤宇之助(鹿児島)
田中政吉(兵庫)

平木安之助(福岡)
中柴鏗三郎(東京)
高橋鐘二(長野)
堀興三(三重)

久保田兵一(北海道)
木下蕃(福井)

兒玉純(鹿児島)
秋吉英三(東京)
黑澤兼次郎(富山)
椋井英一郎(岐阜)

本校別科修了生 第四回別科修了生

菊池 崇 (茨城)
村田 鐵三郎 (愛媛)

遠藤 三藏 (兵庫)

明治三十六年七月第五回別科修了生

英語學科 (十九人)

後藤 敬三 (東京)
石川 功 (廣島)
森 美文 (東京)
大村 足彦 (東京)
小出 鑑次郎 (東京)
片山 喜十郎 (京都)
金子 助次郎 (長崎)
內山 秋太郎 (静岡)
吉福 與四郎 (長崎)
山形 龜次郎 (東京)

小泉 有道 (石川)
三浦 秀二 (長崎)
秋月 源太郎 (静岡)
谷 氷輔 (福島)
倉橋 軍治 (宮城)
山中 榮藏 (山口)
小川 松輔 (宮城)
峰屋 三千三 (東京)
松井 億太郎 (茨城)

佛語學科 (八人)

前原 準一郎 (群馬)

吉岡 七郎 (東京)

黒島 定靜 (高知)
本間 重策 (新潟)
齋藤 豊作 (東京)

松原 制六 (山口)
野田 爲太郎 (鳥取)
秦 正雄 (三重)

獨語學科 (十三人)

眞 弓眞 (愛知)
六笠 弘躬 (東京)
石崎 久吉 (愛媛)
伊東 榮三郎 (東京)
松崎 故一郎 (島根)
伊東 泰助 (千葉)
毛利 正義 (東京)

合田 壽治 (東京)
大久保 直記 (長野)
小倉 俊圓 (山口)
黒住 靜太 (岡山)
吉田 喜三郎 (茨城)
平島 直太郎 (徳島)

露語學科 (八人)

市川 謙三 (東京)
奥野 幸吉 (兵庫)
于 冲漢 (清國人)
松平 庄九郎 (東京)

竹内 彌惣次 (三重)
村上 常郎 (宮城)
村井 英一郎 (岐阜)
鳥居 博 (福島)

伊語學科 (一人)

本校別科修了生 第五回別科修了生

菅野 眞 (宮城)

清語學科 (十三人)

菅沼佐喜男 (三重)
北村一郎太 (長崎)
古谷鐵之助 (東京)
須賀幸太郎 (群馬)
宮越健太郎 (新潟)
吉田與三郎 (滋賀)
山田茂三郎 (富山)

淺井周治 (愛媛)
小池英次 (福島)
中川四郎 (愛媛)
芳野五郎 (東京)
奧田猛 (兵庫)
仲西次郎 (福岡)

明治三十七年七月第六回別科修了生

英語學科 (十二人)

坂垣昌助 (静岡)
原庄藏 (静岡)
林善一 (東京)
堀重幸 (東京)
小笠原靜也 (東京)

太田喜次郎 (京都)
加藤利雄 (東京)
高橋靜雄 (東京)
村形英次郎 (東京)
眞下利三郎 (群馬)

宮越健太郎 (新潟)

佛語學科 (十人)

石津利作 (大阪)
生野團六 (大分)
吉原開 (東京)
中村平吉 (岩手)
寺澤健二 (愛知)

四戸友太郎 (岩手)

獨語學科 (十五人)

石井敏雄 (岡山)
井田豐太 (群馬)
豐田八十一 (兵庫)
大關久五郎 (青森)
金田捨吉 (宮崎)
田畑梅次郎 (岡山)
野々部本祐 (東京)
山根靜智 (島根)

藤本幸太郎 (三重)
坂田弘 (千葉)
澤山勇三郎 (山口)
佐藤純之助 (埼玉)
森六藏 (茨城)
瀬下清 (長野)
杉村信臣 (東京)

露語學科 (四人)

本校別科修了生 第五回別科修了生 第六回別科修了生

原田三平(山口)
岡田貞作(新潟)
村井丑松(新潟)

中川正雄(兵庫)
藤井十四三(山口)
三宅福馬(高知)

清語學科

(十一人)

井上翠(兵庫)
入澤豐(東京)
太田貞吉(東京)
金田雄次(静岡)
只野重次郎(宮城)
長澤貞(栃木)

萊順平治(島根)
今逸郎(青森)
椎野榮一(新潟)
清水知(愛知)
鈴木仁四郎(栃木)
角田松次郎(群馬)

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修了生

英語學科

(十九人)

犬伏節輔(徳島)
今井靜治(新潟)
半田虎雄(東京)
西原脩三(東京)

荻野由次郎(埼玉)
岡本稻輔(神奈川)
小野千代太(廣島)
和田政治(新潟)

河村竹三郎(岐阜)
糟谷武城(鳥取)
多田作治郎(福岡)
鶴見高(千葉)
永井彌彦(茨城)
長岡喜一(山口)

中村三男吉(東京)
中野一三(香川)
内田鎌司(神奈川)
安福勝美(岐阜)
是永均(大分)

佛語學科

(六人)

今道文一郎(長野)
池上泰次郎(長野)
園部潜(三重)

後藤清造(岩手)
崎山刀太郎(東京)
宮林捨藏(新潟)

獨語學科

(十九人)

伊藤一郎(東京)
石田龜吉(秋田)
八田敏夫(福井)
岡田藤十郎(愛知)
小田部家資(秋田)
川村丈吉(千葉)

河崎次雄(長崎)
田中親介(三重)
中田榮太郎(東京)
野島和吉(東京)
葛岡陽吉(宮城)
矢崎習吉(兵庫)

露語學科

(六人)

河野義璋(東京)
小柳新吉(新潟)
小鷹連平(埼玉)
渥美銳太郎(群馬)

相良頼綱(東京)
平島權藏(東京)
鈴木衡平(静岡)

西語學科

(五人)

大友義勝(東京)
根津鹿之輔(千葉)
中瀬覺次郎(富山)

成瀬正義(香川)
山德貫之輔(東京)
間瀬越彌(北海道)

清語學科

(十九人)

伊藤恒太郎(山口)
大塚修(愛媛)
真田五十吉(東京)
岩村成中(千葉)
石原新七(埼玉)
西田周平(富山)

齋藤惣吉(山口)
進藤信雄(群馬)
岡山周藏(兵庫)
荻島四三二(東京)
和田貫一郎(東京)

田淵清一兵衛(徳島)
宇井英(東京)
草場力(愛知)
山野井虎市(東京)
山崎成太郎(奈良)
松本義圓(廣島)
卷雄四郎(東京)

福田勇(岐阜)
青木金太郎(奈良)
新井信次(東京)
天野准一(愛知)
安藤堅次(岐阜)
森山徳助(島根)

明治三十八年七月卒業式ニ於ケル演說祝辭等

尺校長代理報告

上ニ聖明ナル天子アリ下ニ忠勇ナル將卒アリ是ヲ以テ日露戰爭開始以來既ニ一年有余我軍ハ海ニ陸ニ連戰連捷遂ニ敵ノ主力ヲ擊破シテ空前ノ偉勳ヲ奏シ帝國ノ威武ヲシテ大ニ發揚セシメタル時ニ方リ我東京外國語學校ハ本日ヲトシテ第六回卒業證書授與式ヲ舉行シ文部大臣閣下及來賓諸君ノ臨席ヲ辱ウセルハ本校ノ光榮之ニ過キササルナリ

明治三十八年七月卒業式ニ於ケル演說祝辭等 尺校長代理報告

本學年ノ大要ヲ報告スレハ學年末ニ於ケル教員ハ教授十八名外國教師十一名講師十一名助教教授八名ニシテ生徒數ハ英佛獨露伊西清韓ノ八外國語學科各學年通計本科六百三十名專修科二百七十八名總計九百八十八名ナリ之ヲ昨年ノ今日ニ比スレハ百十八名ノ増加トナル而シテ此中今回ノ卒業生ハ本科百十五名選科十五名專修科七十四名總計二百〇五名ナリトス

從來ノ卒業生就職別ハ教師六十六名銀行會社員七十五名官吏二十七名陸海軍通譯官九十八名學生三十名其他ノモノ四十五名死亡九名ナリ此他本校生徒ニシテ通譯タル者百余名アリ此等二百名ノ通譯ハ直接軍事ニ鞅掌シ公務ニ服スル者ナルガ此他ニ在テ戰後經營ニ關スル準備ノ爲實地視察トシテ隣邦ニ遊ベル者亦尠カラズカクテ本校生徒カ着々國運ノ隆興ニ伴ヒ時局ノ需要ニ應セントシツ、アルハ是レ甚ダ喜ブベキコトニシテ我ガ校運亦是レニヨリテ愈發展ス可シ

卒業生諸子ニ對シテハ昨日既ニ訓示セル所アリキ今重ネテ述ベズ希クハ諸子其既ニ得タル所ヲ以テ未ダ得ザル所ノモノヲ購ヘ

久保田文部大臣祝辭

本大臣ハ諸子ノ光榮アル卒業ヲ祝シ併セテ諸子カ克ク本校教養ノ旨趣ヲ體シ益々其學識技能ヲ鍊磨シ操行ヲ慎ミ身體ヲ健全ニシ以テ國家カ諸子ニ期待スル所ニ副ハンコトヲ望ム今ヤ皇師連捷威武中外ニ揚ル然リト雖モ國運ノ振張ニ伴ヒ國家ノ前途愈々多事ニ國民ノ責任益々大ナリ諸子之ヲ思フテ一層奮勵スル所アルヘシ

本校卒業生總代謝辭

高辻豐 (獨語演述)

Guer Excellenz, Herr Unterrichtsminister!

Hochgeehrte Herren!

Als Vertreter der Abiturienten der heutigen Abtheilung muß ich zunächst der hohen Freude Ausdruck geben, die uns bei der heutigen Schlussfeier der Gaisioku-Gyogakko befehl, da wir die hohe Ehre genießen, in unmittelbarer Seiner Excellenz des hochgeachteten Herrn Unterrichtsministers, und vieler hoher Herren das Preisurtheil zu empfangen.

Diese Ehre haben wir vor allem dem unermüdbaren Bestreben unseres hochgeehrten Herrn Präsesenten Professore, Dr. Seti zu verdanken, dessen schönes Ziel stets ist, die Gaisioku-Gyogakko zu einer hohen Bildungsanstalt für fremde Sprachen zu erheben, dessen Sinn stets darauf gerichtet ist, uns, seinen anvertrauten Schülern, das schwierige Studium fremder Sprachen zu erleichtern, uns nicht nur fremde Wörter und tote Sprachengesehe lernen, sondern uns auch in den lebendigen Geist der Sprache eindringen zu lassen.

Bei diesem großen Bestreben des Herrn Präsesenten waren unsere hochgeehrten Professoren die treuesten Helfer, durch deren Wissen und Bemühen wir das wurden, was wir jetzt sind.

Diesen unseren Hülfern sind wir zu ewigem Danke verpflichtet.

Dyne heutige Sprachkenntniß und mit mannichfacher Bildung treten wir in die Welt hinaus ein. An drei arbeitstretenden Jahren hat sich aber unser geistiger Beschäftigter bedeutend erweitert, wir haben uns Kenntnisse angeeignet. Die uns im späteren Leben unserem Ziele immer näher bringen werden, unter trefflicher Leitung unserer geehrten Herren Lehrer gelangten wir endlich zu den großen und edlen Schätzen deutscher Kunst und Wissenschaft, durch deren hohe sittliche Beale unser Charakter gereift wurde und wir um so mehr treue und hohe Söhne unseres Vaterlandes Japan werden können.

Ihr sind aber auch verpflichtet, Japans treue Söhne zu sein, denn die Absichten unserer Bildungsanstalt verbanden wir unserem Vaterlande, dessen Gesungswort „Bildung seiner Bürger“ ist, unserem Vaterlande, welches keine Opfer scheut, seine Bürger zum geistigen Ziele zu immer höherer Bildung zu führen denn Bildung ist die Mutter edler Tugenden, die Blige aller Künste, der Grundpfeiler unseres Glückes, der Ehre und die Stierbe unseres Volkes.

Deshalb müssen wir am heutigen Festtage, da wir der Gaisioku-Gyogakko, deren Absichten wir drei Jahre genossen haben, Abschied sagen, dem Vaterlande den größten Dank ausdrücken und versprechen, mit Hilfe unserer heutigen Bildung immer weiter zu streben, unseren geistigen Dienst des Vaterlandes zu stellen und mitzubekommen, daß dieses auf seiner Bahn immer weiter schreitet.

Sobem wir Abschied nehmen in süßer Erinnerung von der uns liegegewordenen Gaisioku-Gyogakko werden und zugleich freudigen Gefühles in die Zukunft schauen, sagen wir nochmals allen, welche unsere Abgewandter ins spätere Leben waren und durch deren Bemühen wir die Absichten des Vaterlandes genießen konnten, herzlichsten Dank und versprechen ihnen, ihren Segnen und Ermahnungen in unserem Leben stets treu zu bleiben.

Shutaka Satatsuji

Stichtent des heutigen Regulate-Courtes.

本校卒業生總代謝辭

神谷衡平 (清語演述)

今天本學堂特意開這個會給我們卒業的文憑我們實在感激不盡想我們自從入了學堂直到如今這三年的工夫天天兒蒙諸位先生懇切之指教諸位先生的這個大恩真是高於泰山深於渤海我們不知道拿甚麼可以報答只想我們卒業之後若拿着在這學堂裏所學的為國家盡力不辜負諸位先生的教訓也可以算報這個大恩的萬分之一我們還想諸位先生期望我們的也一定是在這兒罷再說現在東亞的天地紛々擾々正是國家內外多事的時候兒我們出這個學堂我們的責任又重大但是處在現在的時候世上要去辨世界上的一件大事非曉得外國話決不能成的萬幸我們在這學堂裏學了外國話又搭着遇見這個千載一遇的好機會出這個學堂之後我們的前途實在是遠大我們將來拿着所學的外國話一面為國家出力一

本校卒業生總代謝辭

面報諸位先生三年的工夫指教我們的大恩這就是我們的目的我們現在雖然離開這個學堂還要請諸位先生永遠別吝大教我們的意思一時也說不完今天我替我們卒業的學生們不過說這幾句話謝及諸位先生這幾年的教育之恩就是了」

專修科修了生總代謝辭

崎山太刀郎(佛語演述)

MONSIEUR LE DIRECTEUR.

Au nom des élèves du Cour spécial qui viennent d'achever des études élémentaires de Langue française, et auxquels vous avez bien voulu conférer le diplôme de l'École des Langues, je viens vous adresser nos remerciements.

Je viens aussi exprimer notre reconnaissance à nos professeurs qui, pendant deux années, nous ont enseigné le français avec un dévouement inépuisable.

Témoins des progrès rapides que fait, entre les nations du monde, la facilité des communications, nous sommes convaincus de la nécessité, pour tout homme actif et qui veut contribuer à la grandeur de son pays, de connaître une langue étrangère. Le français surtout, qui est la langue d'un des pays les plus civilisés, et qui sert aux relations entre les puissances, nous est d'une utilité essentielle. Grâce à nos chers professeurs, nous sommes, dès maintenant, en état d'étudier nous-mêmes cette belle langue. Aussi nous proposons-nous de travailler avec ardeur, pour nous perfectionner dans la connaissance du français. Ce sera, croyons-nous, la meilleure manière de prouver notre reconnaissance à notre Ecole et à nos maîtres.

T. SAKIYAMA.

本科生徒府縣別表

(明治三十八年九月三十日調)

府 分 區	英語學科			佛語學科			獨語學科			露語學科			伊語學科			西語學科			清語學科			韓語學科			計
	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	
北海道		一			一			一																	七
東京	五	四	二		五	八	七		三	六	四										四	一〇	三		八九
京都			三				一																		五
大阪	二				一		一																		一〇
神奈川						一	五																		一九
兵庫			一			一	二																		二二
長崎																									七
新潟			三																						一九
埼玉	二																								三

本科生徒府縣別表

百二十三

本科生徒府縣別表

山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島
二		一	一				一		一			二
一		二		一	一			一	二			一
	一		一	二	一				二			
二		一			一				一		一	一
						一	一				一	
				一	一							三
一	二	一			一							一
一	二		一				一		一			一
一					一		三	一				一
一	一		一		一	二	二				一	
一	一					一	一		一	一		
一										一		二
								一				
								一	一			
一	一											
三						一						二
			一									
一		一	一	一		一						一
	一	一	一	一						一		一
	二		一			一			一			
	一											
一六	二	七	八	六	七	八	九	四	二	三	三	一六

百二十五

宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬
	一					一	一			二	一	一
	二		一		二	一				一		二
	三	一		一		一	二		一	一		
	一										三	一
	三	一	一			一						二
		一			三				一	一	一	一
一			一							一		
二					一		一			一	一	一
一	三			一	一	一			一	一	二	
	二		一	一			一					
	一	一			一	二	三	一	一	一	一	二
			一									一
一〇	二六	七	七	一〇	一五	一三	一四	二	五	一九	一一	一四

百二十四

專修科生徒府縣別表

廣	岡	島	鳥	富	石	福	秋	山	青	岩	福	宮
島	山	根	取	山	川	井	田	形	森	手	島	城
一		一								一	二	
					二	一		一	二		一	三
		一		一					一			
							一			一		
	一	三								一		一
四	三	一	二	三	一	二	一	三		一	三	四
		一			一	一				一	一	一
												一
一	二					二		一			二	
一	三	一	一	三	一	三		三	一	四	三	四
	一						一				一	
七	八	八	四	七	五	九	三	八	四	九	三	一

長	岐	滋	山	靜	愛	三	奈	朽	茨	千	群	埼
野	阜	賀	梨	岡	知	重	良	木	城	葉	馬	玉
	一			一	一			一		一		
	三	二	一	三	三	一	一	三	四		二	一
一		一			一			一	一		一	一
						一		一	二	一		一
				二	一	一	一	一	二	一		
四	三	一			一	三	一	一	三	四	二	六
				一								
						一						
	一	一							二	一		
一				一	一				一	一	三	二
四	一	一	二	一	一	一			七	三		三
						一						
		一	一	一	一					一		
一	九	七	四	一	二	九	三	八	三	一	八	一

第五條 本校職員ハ特別會員タルヘキモノトス
 第六條 本校卒業生ヲ贊助會員トス
 第七條 朝野ノ名士ニシテ本校ニ縁故アルモノヲ以テ名譽會員トス

第三章 會費及寄附

第八條 正會員ハ入會金トシテ第壹圓及ヒ經常費トシテ毎年金貳圓ヲ主計ニ納ム可シ

但シ入會金ハ九月中ニ之ヲ納メ經常費ハ授業料ト同時ニ二期ニ分納ス可シ

第九條 特別會員ハ會費トシテ毎月俸給額百五十分ノ一ヲ納付ス可シ但シ四捨五入ヲ以テ錢位ニ止ム

第十條 名譽會員及贊助會員ハ會費ヲ徴收セス

第十一條 有志者ヨリ金圓又ハ物品ノ寄附ヲ受ケタル時ハ本會ノ記録ニ掲クヘキモノトシ

第四章 部類

第十二條 本會ノ目的ヲ達センカ爲メニ左ノ五部ヲ置ク

一 第一部 武術 一 第二部 陸上運動 一 第三部 水上運動

一 第四部 講演 一 第五部 雜誌

但シ各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本會ノ事務ヲ整理センカ爲メニ左ノ役員ヲ置ク

但シ必要ノ場合ニハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

- 一 會長 一名 一 副會長 一名
- 一 評議員 十名以內 一 理事 六名
- 一 幹事 十三名 一部二名、二部二名、三部四名、四部三名、五部二名 一 委員 各級一名
- 一 主計 一名 一 録事 一名

第十四條 會長ハ東京外國語學校校長ニ委囑ス

第十五條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス

第十六條 副會長ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第十七條 副會長ハ會長ヲ補佐ス會長事故アルトキハ會長ニ代リ其事務ヲ處理ス

第十八條 評議員ハ本校出身者ニシテ殊ニ本會ニ對シ功勞アリタル者ヨリ會長之ヲ推薦シ諸種ノ會議ニ列シ發言權ヲ有スルモノトス

第十九條 理事ハ三年級ヨリ三名二年級ヨリ二名一年級ヨリ一名委員中ヨリ互選シ副會長ヲ助ケテ本會ノ事務ヲ整理ス

第二十條 幹事ハ理事ノ推薦ニ依リ會長之ヲ囑託シ各部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 委員ハ各級ヨリ一名互選シ會長及副會長ノ命ニ從ヒ本會ノ事務ヲ評議ス

第二十二條 主計ハ本校ノ會計課員中ヨリ一名會長之ヲ委託シ本會一切ノ出納ヲ掌ル

第二十三條 録事ハ本校事務員中ヨリ一名會長之ヲ委託シ會長及副會長ノ命ヲ受ケ本會ノ庶務ヲ整理ス

第二十四條 會長副會長主計録事ヲ除クノ外各役員ノ任期ハ滿一ケ年トス但シ毎年九月ヲ以テ任期ノ始メトス

第六章 豫算及會議

第二十五條 豫算ハ各部幹事毎年五月五日迄ニ之ヲ編成シ同月十日迄理事幹事會議ヲ開テ之ヲ審査シ同十五日迄ニ委員會ノ決議ヲ取り會長ノ認可ヲ經テ決定ス

第二十六條 本會會計年度ハ九月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二十七條 各役員會ハ役員半數以上ノ出席者アルニ非サレハ成立セサルモノトス

第二十八條 規則ハ評議員及ヒ委員會ノ決議ニ依リ會長ノ認可ヲ經テ改正スルコトヲ得

附 則

本則ハ明治三十五年九月ヨリ全部施行ス

東京外國語學校內 東京外國語學會規則

第一章 名稱

第一條 本會ハ東京外國語學會ト稱ス

第二章 目的

第二條 本會ハ外國語學ノ獎勵ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ諸外國ノ近世語及ヒ古語ノ研究講習、編纂、翻譯ニ從事スルモノトス

第三章 會員

第四條 本會々員ヲ分テ通常會員、特別會員ノ二種トス

一、通常會員 東京外國語學校職員

二、特別會員 本會ノ目的ヲ贊成シソノ事業ヲ助クルモノニシテ通常會員三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ入會シタルモノ

第四章 役員

第五條 本會ニ理事三名ヲ置キ本會全般ノ事務ヲ管理セシム

第六條 理事ハ通常會員中ヨリ互選ス

第五章 部門

第七條 本會ニ左ノ三部ヲ置ク

第一 講究部

第二 編輯部

第三 翻譯部

第六章 講究部

第七條 講究部ハ諸外國語及其教授法ヲ講究スルヲ以テ目的トシ必要ニ應シテ講習會ヲ開設ス

第七章 編輯部

第八條 編輯部ハ諸外國語ノ字書、文法書其他ノ編纂事業ニ當ルモノトス

第八章 翻譯部

第九條 翻譯部ハ諸外國語ニ係ル翻譯ニ從事スルモノトス

第十條 本部ノ附屬事業トシテ公私ノ依頼ニ應シテ左ノ外國語ノ翻譯ヲナスコ

トアルヘシ

一、近世語 英、佛、獨、露、伊、西、清、韓、和、蘭、葡、萄、牙、丁、抹、瑞、典、那、威、暹、羅、馬、來、タ、ガ、ラ、土、耳

其、蒙、古、滿、洲、西、藏、印、度

二、古 語 アリヤン語、セミチツク語

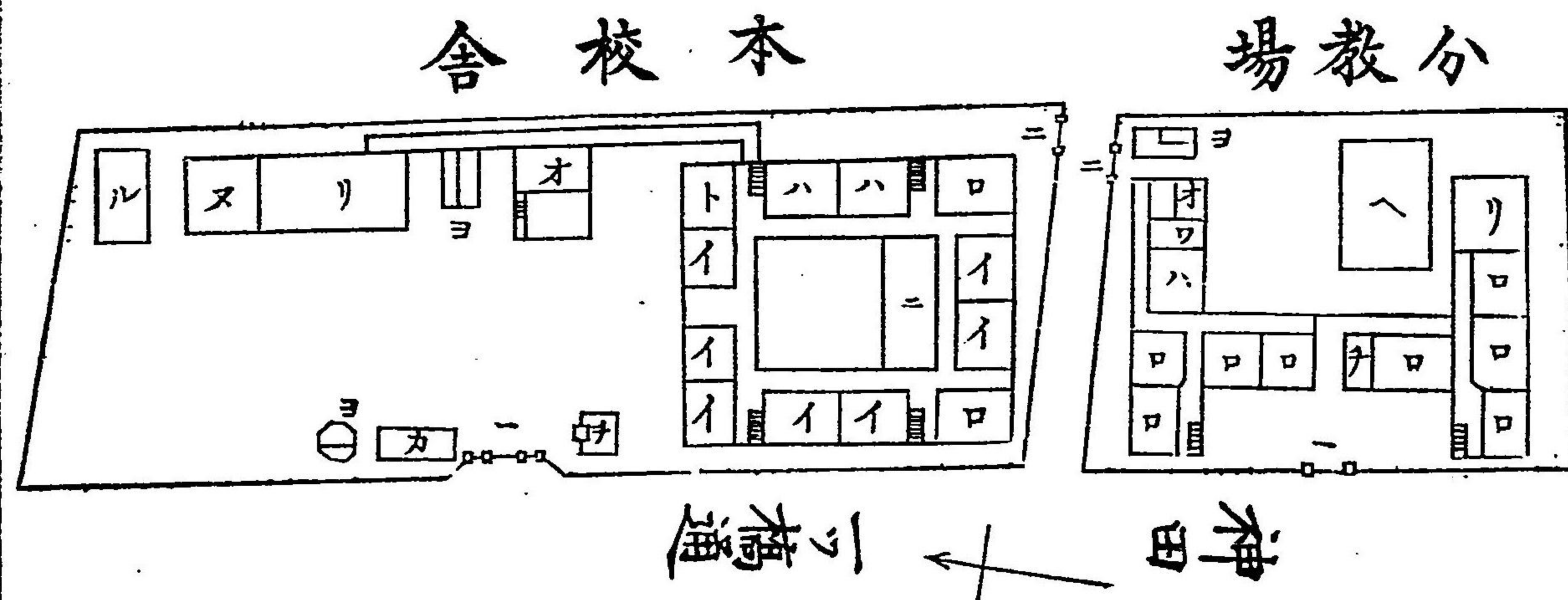
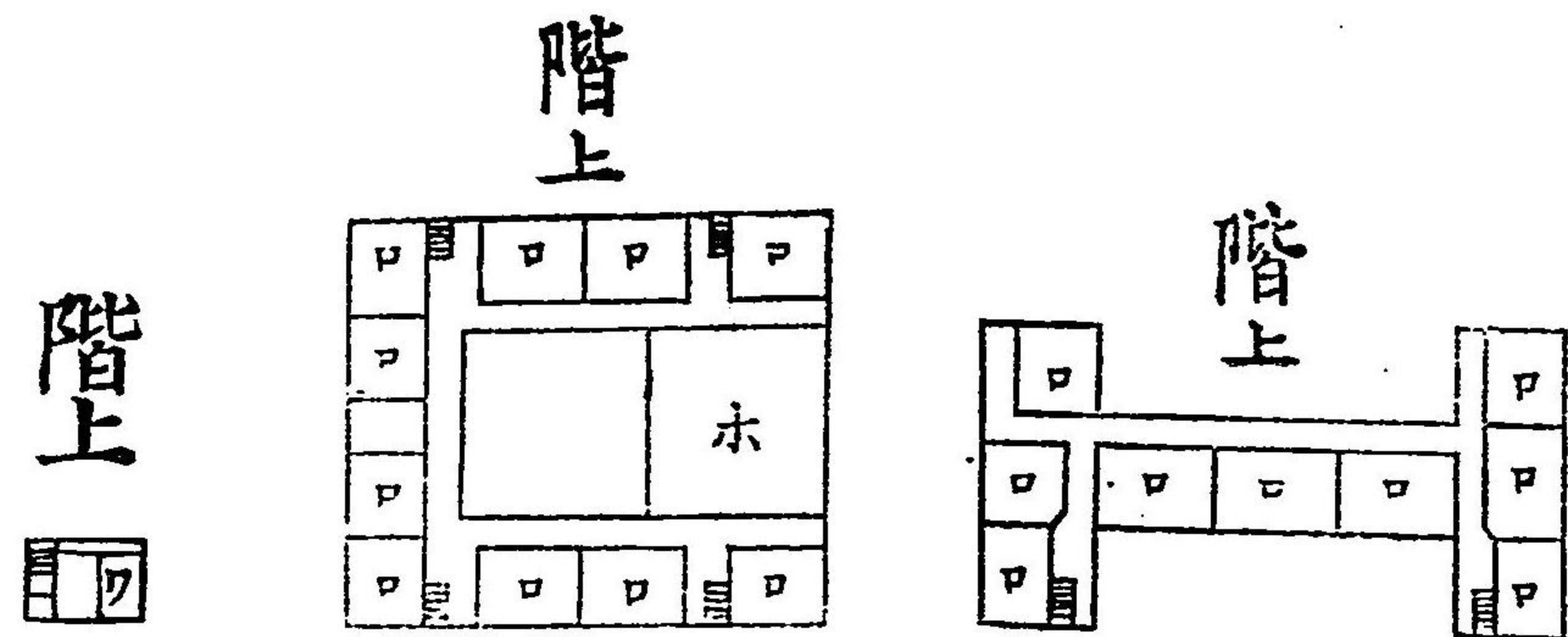
第九章 規則改正

第十一條 本會規則ノ改正ハ通常會員三分ノ二ノ同意ヲ要ス

東京外國語學校建校物略圖

縮尺二千百分之一

ヨ	カ	ワ	ヲ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ	二	一
便	供	宿	小	物	銃	生	巡	應	道	講	圖	教	教	事	通	正
	待	直	使		器	徒	視	接		義	書	官		務	用	
所	所	室	室	置	室	所	所	所	場	室	所	室	室	室	門	門



田舎 ← 鐵道

明治三十八年十一月廿七日印刷
明治三十八年十一月三十日發行

東京外國語學校

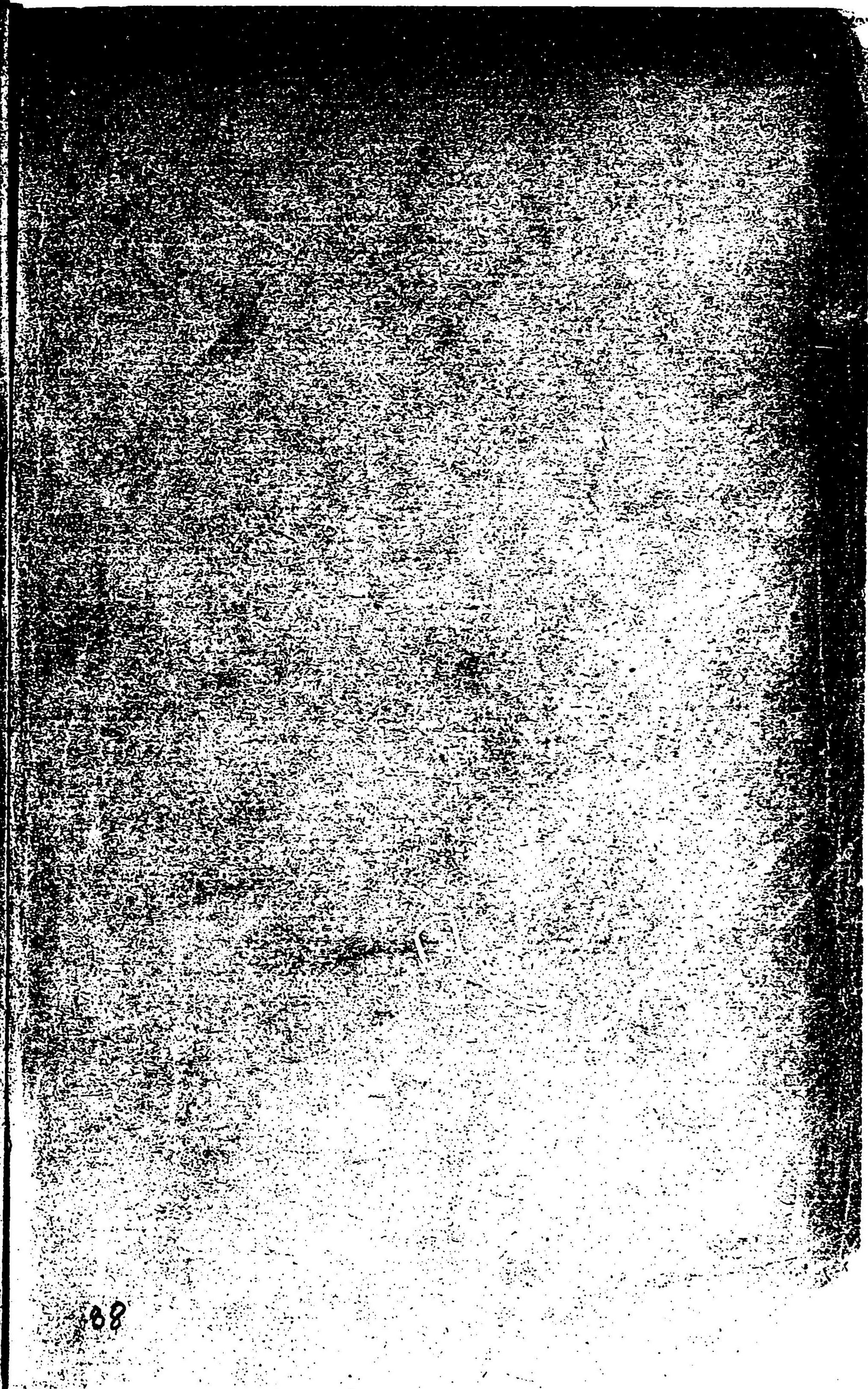
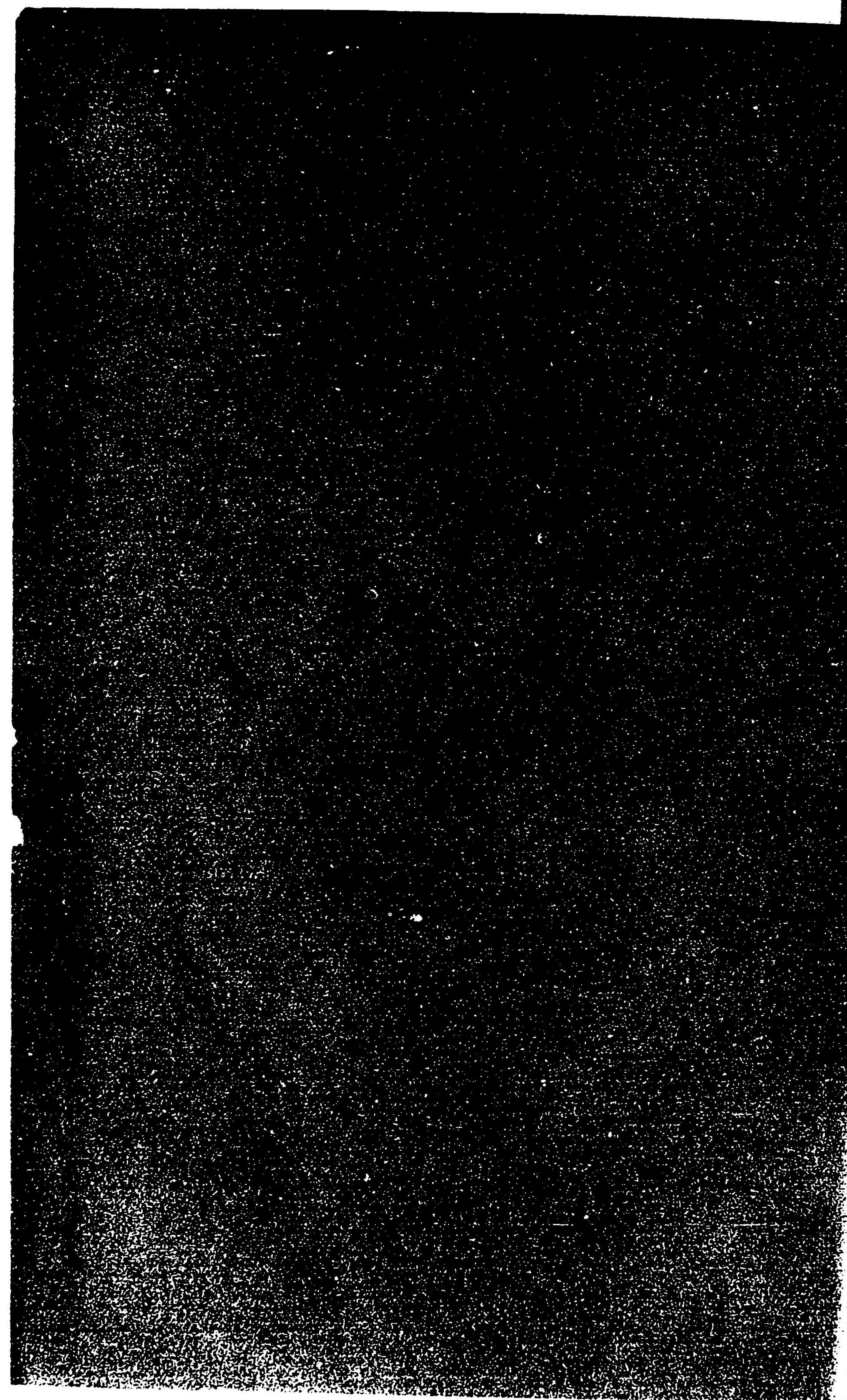
印刷者 知野勝直

東京市牛込區新小川町
二丁目八番地

印刷所 明治商會

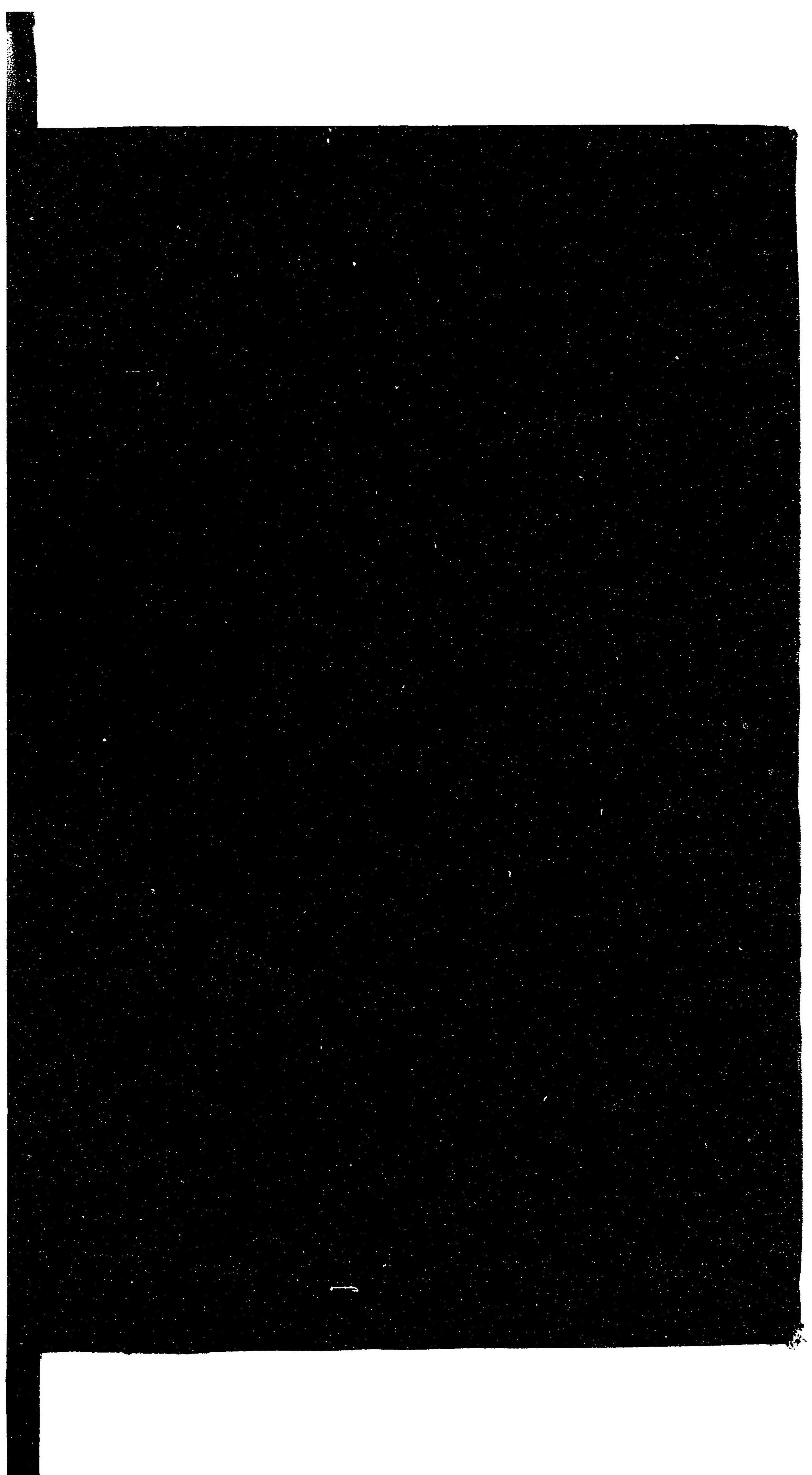
東京市京橋區本材木町
三丁目十五番地
(電話本局參千貳百貳番)

293.5



88

293
5
1



293
1

